

令和元(平成31)年度
(2019年)

農作物有害動植物発生予察事業年報

島根県農業技術センター
島根県病害虫防除所

目 次

I. 事業の目的	1
II. 事業の実施の方針と概要	1
III. 事業対象有害動植物の種類	1
IV. 事業実施組織と本年度の実施方法	2
1. 病害虫防除所における予察事業担当者	2
2. 病害虫防除員	2
3. 予察圃場設置一覧	2
4. 予察灯・フェロモントラップの設置一覧	2
V. 事業内容	3
1. 令和元（平成31）年度における調査観察成績	3
I) 普通作物等	3
(I) イネ	3
1. イネの生育状況	3
2. 病害虫に関する調査結果	3
1) 稲こうじ病	3
2) 葉いもち	3
3) 穂いもち	4
4) 縞葉枯病	5
5) ばか苗病	5
6) もみ枯細菌病	5
7) 紋枯病	5
8) イネミズゾウムシ	6
9) コブノメイガ	7
10) セジロウンカ	8
11) ツマグロヨコバイ	10
12) トビイロウンカ	11
13) ニカメイガ	12
14) 斑点米カメムシ類	14
15) ヒメトビウンカ	15
16) フタオビコヤガ	16
(II) ムギ	17
1. ムギの生育状況	17
2. 病害虫に関する調査結果	17
1) さび病類、うどんこ病、斑葉病、雲形病、赤かび病	17
(III) ダイズ	19
1. ダイズの生育状況	19

2. 病害虫に関する調査結果	19
1) アブラムシ類	19
2) 吸実性カメムシ類	19
3) ハスモンヨトウ	20
II) 果樹	21
(I) ナシ	21
1. 病害虫に関する調査結果	21
1) 黒斑病、黒星病	21
2) ナシヒメシンクイ	24
3) ナシオオシンクイガ	25
4) モモシンクイガ	25
5) チャノコカクモンハマキ	26
6) チャハマキ	26
7) ハダニ類、カイガラムシ類	27
8) アブラムシ類	27
(II) カキ	28
1. 病害虫に関する調査結果	28
1) 炭疽病	28
2) うどんこ病、円星落葉病、角斑落葉病、灰色かび病	28
3) カキミガ	30
4) カメムシ類	31
5) チャノコカクモンハマキ	32
6) チャハマキ	32
7) カキクダアザミウマ	32
8) フジコナカイガラムシ	32
(III) クリ	33
1. 病害虫に関する調査結果	33
1) モモノゴマダラノメイガ	33
2) クスサン	34
III) 野菜	35
(I) キャベツ	35
1. 病害虫に関する調査結果	35
1) 黒腐病	35
2) 菌核病	35
3) モンシロチョウ	35
4) コナガ	35
5) ヨトウガ	36
6) ウワバ類	36
7) アブラムシ類	36
8) ハスモンヨトウ	36

9) シロイチモジヨトウ	37
10) オオタバコガ	38
11) キスジノミハムシ	38
(II) タマネギ	39
1. 病害虫に関する調査結果	39
1) ベと病	39
2) 白色疫病、ボトリチス属菌による葉枯症、腐敗病・軟腐病	39
(III) イチゴ	40
1. 病害虫に関する調査結果	40
1) 灰色かび病	40
2) うどんこ病	40
3) 炭疽病	40
4) アブラムシ類	41
5) ハダニ類	41
6) アザミウマ類	42
7) コナジラミ類	42
IV) 花卉	43
(I) キク	43
1. 病害虫に関する調査結果	43
1) 白さび病	43
2) アザミウマ類	43
3) アブラムシ類	43
4) ハダニ類	44
V) 病害虫発生程度別面積	45
VI) 病害虫発生経過の概要及び発生原因の解析	48
1. イネの病害虫	48
2. ムギの病害	49
3. ダイズの病害虫	49
4. ナシの病害虫	49
5. カキの病害虫	50
6. 夏秋キャベツの病害虫	51
7. 冬キャベツの病害虫	51
8. タマネギの病害虫	52
9. イチゴの病害虫	52
10. キクの病害虫	52
VII) 情報の提供、諸報告に関する事項	53
1. 情報の提供先	53
2. 発表状況	53
3. 発表内容	54
注意報 第1号 イネ トビイロウンカ	55

特殊報	第1号	トマト、ピーマン トマト茎えそ病、ピーマンえそ輪点病	57
	第2号	ツマジロクサヨトウ	61
	第3号	ブドウ コウノアケハダニ	63
臨時情報	第1号	イネ トビイロウンカ	65
技術資料	第1号	タマネギ ベと病	66
	第2号	イチゴ ハダニ類	68
	第3号	タマネギ 腐敗病・軟腐病	69
	第4号	イネ トビイロウンカ	70
	第5号	タマネギ ベと病	71
VIII)		気象表	72

I 事業の目的

病害虫の防除を適時で経済的なものとするため、病害虫の発生、農作物の生育及び気象などの状況を調査して、病害虫の発生を予察しそれに基づく情報を関係者に提供する。

II 事業実施の方針と概要

指定有害動植物に重点をおき、これらの病害虫の発生予察法の確立を図るとともに、農業普及部及び病害虫防除員などと連絡を密にし、確実な情報の収集に努め、発生予報、特殊報、注意報及びその他必要な情報をすみやかに提供して、適期防除による被害防止に努めた。また、JAなど生産者団体とは絶えず緊密な連絡をとり、重要な病害虫の発生に際しては、その都度資料を提示して適切な対策について協議決定し、防除に万全を期した。

III 事業対象有害動植物の種類

1. 普通作物等

- | | | |
|--------|-----|--|
| 1) イネ | 指 定 | 稲こうじ病、いもち病、縞葉枯病、ばか苗病、もみ枯細菌病、紋枯病、イネミズゾウムシ、コブノメイガ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、トビイロウンカ、ニカメイガ、斑点米カメムシ類、ヒメトビウンカ、フタオビコヤガ |
| 2) ムギ | 指 定 | 赤かび病、うどんこ病 |
| 3) ダイズ | 指 定 | アブラムシ類、吸実性カメムシ類、ハスモンヨトウ |

2. 野菜

- | | | |
|---------|-----|--|
| 1) イチゴ | 指 定 | うどんこ病、炭疽病、灰色かび病、アザミウマ類、アブラムシ類、ハダニ類 |
| 2) キャベツ | 指 定 | 菌核病、黒腐病、アブラムシ類、ハスモンヨトウ、ヨトウガ、コナガ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ |
| 3) タマネギ | 指 定 | 白色疫病、べと病 |

3. 果樹

- | | | |
|-------|-----|--|
| 1) カキ | 指 定 | 炭疽病、アザミウマ類、カイガラムシ類、カキノヘタムシガ、ハマキムシ類、果樹カメムシ類 |
| 2) ナシ | 指 定 | 黒星病、黒斑病、アブラムシ類、シンクイムシ類、ハダニ類、ハマキムシ類 |

4. 花き

- | | | |
|-------|-----|--------------------|
| 1) キク | 指 定 | 白さび病、アザミウマ類、アブラムシ類 |
|-------|-----|--------------------|

5. 作物共通

- | | |
|-----|---|
| 措 定 | オオタバコガ、シロイチモジヨトウ、ハスモンヨトウ、ヨトウガ、コナガ、果樹カメムシ類 |
|-----|---|

IV 事業実施組織と本年度の実施方法

農作物有害動植物発生予察事業実施要綱、同要領に準拠する。

1. 病虫害防除所における予察事業担当者

職名	氏名	担当
科長	奈良井 祐隆	虫害
専門研究員	澤村 信生	虫害
主任研究員	福間 貴寿	病害
〃	永島 進	病害
〃	小塚 雅弘	虫害
〃	磯田 淳	病害
研究員	角菜 津子	虫害
〃	山本 隼佑	虫害
〃	近藤 亜美	病害

2. 病虫害防除員

水稲、果樹に関する病虫害防除員は本県の主要産地である市町村に配置している。水稲17名。

3. 予察圃場設置一覧

1) 県予察圃場

種類	設置場所	品 種 等
イネ	出雲市芦渡町	コシヒカリ
ムギ	〃	農林61号、サチホゴールド
ナシ	〃	二十世紀(44年生樹)
カキ	〃	富有(44年生樹)

2) 地区予察圃場

種類	設置地点名
イネ	邑智郡川本町田窪
ナシ	安来市中津町
カキ	出雲市東福町

4. 予察灯・フェロモントラップ設置一覧

病虫害名	設置地点名	備考
ウンカ類	出雲市芦渡町	予察灯
ウンカ類	出雲市芦渡町	粘着誘殺灯
ニカメイチュウ	出雲市芦渡町	フェロモントラップ
モモシクイガ	安来市中津町	フェロモントラップ
ナシヒメシクイ	安来市中津町	フェロモントラップ
ヨトウガ類	益田市飯田町	フェロモントラップ

V 事業内容

1. 令和元年度における調査観察成績

I) 普通作物等

(I) イネ

1. イネの生育状況

1) 生育概況

育苗期間の4月から5月にかけて高温・多照であったため、苗の生育や作業が順調に進み、田植期は平年に比べやや早くなった。田植後の5月中旬から高温で推移したことから活着が順調に行われた。その後も高温で推移したことにより平坦部の一部では、藻や表層はく離による分けつ抑制が見られたほ場もあった。6月に入ると低温・寡日照となり分けつの発生が鈍化した。有効茎歩合が高まったことで平年並みの穂数が確保された。幼穂形成期から出穂期までの間の葉色が濃く推移したこともあり、1穂粒数が増え、全粒数が過剰基調となり、同時に登熟に必要な十分な貯蔵養分が確保できなかった。登熟後期も日照時間が短く推移したため貯蔵養分不足と相まって玄米の収量・品質が低下した。また、この間の気温が高く推移したことも、心白・腹白の発生を助長し、品質を下げる要因となった。病害虫では、「トビイロウンカ」が坪枯れ症状を引き起こすなど県下全域で発生したため、9月5日に21年ぶりに同虫の注意報が発令された。収量は506kg/10aと前年産に比べ9kg減少し、作況指数は99となった。

2) 作柄及び検査概況

令和元年産米は、生育期間が低温・寡日照による茎数不足を、一穂粒数の増加で補ったため、結果的に㎡あたり粒数が過剰となった。また7月中旬から登熟後期までの日照時間が不足した事による登熟不良、また9月上中旬の高温と相まって「コシヒカリ」を中心に「心白腹白」や「基部未熟」等の整粒不足や収量の低下を引き起こした。一方でこの影響を比較的受けなかった「ハナエチゼン」では、近年にない高単収となった。なお、主な格下げ理由は、青未熟粒、心白粒やカメムシなどであり、9月の天候の影響が大きかったと推察される。

(2019年産水稻・麦類・大豆の作柄概況(農業技術センター技術普及部)より抜粋)

2. 病害虫に関する調査結果

1) 稲こうじ病

(1) 発病状況調査

①巡回における調査

調査時期	品種	調査圃場数	発生圃場率	調査株数	発病株率	株当たり病粒数
9月中旬	きぬむすめ	115	9.6%	5750株	0.3%	0.01個

2) 葉いもち

(1) 発病状況調査

①定点における調査

○県予察圃場(出雲市芦渡町)

区別	調査月日	草丈	茎数	発病株率	発病度	病斑型
普通肥料区	6.14	32.6 cm	16.2 本	0%	0	
	24	44.3	21.5	0	0	
	7.4	61.6	23.8	0	0	
	17	77.3	19.7	0	0	
	26	88.0	21.0	0	0	
窒素増量区	8.6	100.3	17.9	0	0	
	6.14	33.8	13.9	0	0	
	24	42.6	18.3	0	0	
	7.4	62.9	21.5	0	0	
	17	80.0	21.2	0	0	
	26	91.2	20.7	0	0	
	8.6	103.6	20.1	0	0	

注) 調査株数: 50株、品種: コシヒカリ(5月8日植え)

○地区予察圃場（川本町田窪）

区 別	調査月日	草丈	茎数	発病株率	発病度
普通肥料区	6. 17	39.5 cm	17.1 本	0 %	0
	25	45.3	21.8	0	0
	7. 5	54.1	25.6	0	0
	16	68.9	29.4	0	0
	25	77.1	26.7	0	0
	8. 5	89.0	20.2	0	0

注) 調査株数：50株、品種：コシヒカリ

②巡回による調査（特定圃場）

ア. 出雲市

調査月日	発生圃場率	発病株率	発病度
6. 14	0 %	0 %	0 %
24	0	0	0
7. 4	0	0	0
17	0	0	0
26	0	0	0
8. 6	0	0	0

注) 20圃場、500株調査

ウ. 大田市、邑智郡、江津市

調査月日	発生圃場率	発病株率	発病度
6. 17	0 %	0 %	0 %
25	0	0	0
7. 4	0	0	0
16	0	0	0
25	0	0	0
8. 5	0	0	0

注) 30圃場、750株調査

イ. 雲南市（大東町、加茂町）

調査月日	発生圃場率	発病株率	発病度
6. 14	0 %	0 %	0 %
24	0	0	0
7. 4	0	0	0
17	0	0	0
26	0	0	0
8. 6	0	0	0

注) 20圃場、500株調査

③置き苗の発病状況調査

調査時期	発生地点率*
6月第1半旬	0 %

注) *：置き苗放置圃場に対する割合

3) 穂いもち

(1) 発病状況調査

①定点における調査

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

区 別	8月27日	
	発病株率	発病穂率
普通肥料区	0 %	0 %
窒素増量区	0	0

注) 調査株数：50株

○地区予察圃場（川本町田窪）

区 別	8月26日	
	発病株率	発病穂率
普通肥料区	0 %	0 %

注) 調査株数：50株

4) 縞葉枯病

(1) 発病状況調査

①巡回における調査

調査時期	調査圃場数	発生圃場率	調査株数	発病株率	発病度
6月中旬	70	0 %	1750株	0 %	0 %
6月下旬	70	0	1750	0	0
7月上旬	70	0	1750	0	0
7月中旬	70	0	1750	0	0
7月下旬	70	0	1750	0	0
8月上旬	70	0	1750	0	0
8月下旬	70	0	1750	0	0

5) ばか苗病

(1) 発病状況調査

①巡回における調査

調査時期	調査圃場数	発生圃場率	調査株数	発病株率
6月下旬	70	0 %	1750 株	0 %
7月下旬	70	0	1750	0

6) もみ枯細菌病

(1) 発病状況調査

①巡回における調査

調査時期	品種	調査圃場数	発生圃場数	調査株数	発病株数	調査穂数	発病穂数
9月中旬	きぬむすめ	115	33	5750 株	182 株	59405 本	330 本

7) 紋枯病

(1) 発病状況調査

①定点における調査

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

区別	調査月日	草丈	茎数	発病株率	発病度
普通肥料区	6. 14	32.6cm	16.2	0 %	0
	24	44.3	21.5	0	0
	7. 4	61.6	23.8	0	0
	17	77.3	19.7	0	0
	26	88.0	21.0	0	0
	8. 6	100.3	17.9	0	0
窒素増量区	8.27	100.2	18.4	0	0
	6. 14	33.8	13.9	0	0
	24	42.6	18.3	0	0
	7. 4	62.9	21.5	0	0
	17	80.0	21.2	0	0
	26	91.2	20.7	2.0	0.5
	8. 6	103.6	20.1	2.0	0.5
8.27	104.9	18.9	10.0	4.0	

注) 調査株数：50株、品種：コシヒカリ(5月8日植え)

○地区予察圃場（川本町田窪）

区 別	調査月日	草丈	茎数	発病株率	発病度
普通肥料区	6. 17	39.5 cm	17.1 本	0 %	0
	25	45.3	21.8	0	0
	7. 5	54.1	25.6	0	0
	16	68.9	29.4	0	0
	25	77.1	26.7	0	0
	8. 5	89.0	20.2	0	0

注) 調査株数：50株、品種：コシヒカリ

②巡回による調査（特定圃場）

ア. 出雲市

調査月日	発生圃場率	発病株率	発病度
6. 14	0 %	0 %	0
24	0	0	0
7. 4	0	0	0
17	0	0	0
26	10.0	0.4	0.10
8. 6	10.0	0.6	0.15
27	15.0	0.8	0.20

注) 20圃場、500株調査

イ. 雲南市（大東町、加茂町）

調査月日	発生圃場率	発病株率	発病度
6. 14	0 %	0 %	0
24	0	0	0
7. 4	10.0	0.4	0.10
17	20.0	0.8	0.20
26	20.0	1.6	0.40
8. 6	25.0	2.8	0.70
27	30.0	9.0	2.65

注) 20圃場、500株調査

ウ. 大田市、邑智郡、江津市

調査月日	発生圃場率	発病株率	発病度
6. 17	0 %	0 %	0
26	0	0	0
7. 5	6.7	0.3	0.07
16	10.0	0.4	0.10
25	10.0	0.4	0.10
8. 5	10.0	0.5	0.13
26	13.3	1.7	0.70

注) 30圃場、750株調査

8) イネミズゾウムシ

(1) 予察灯による成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺表

地点名 月.半旬	出雲市芦渡町		地点名 月.半旬	出雲市芦渡町		地点名 月.半旬	出雲市芦渡町	
	本 年	平 年		本 年	平 年		本 年	平 年
4. 1	0	0.0	6. 1	0	0.6	8. 1	2	7.2
2	0	0.0	2	1	1.2	2	0	3.9
3	0	0.0	3	0	0.5	3	0	2.2
4	0	0.0	4	0	1.6	4	0	1.3
5	0	0.0	5	0	12.5	5	1	0.6
6	0	0.2	6	0	30.2	6	0	0.8
5. 1	2	8.7	7. 1	0	18.2	9. 1	0	0.6
2	0	6.6	2	0	14.9	2	0	0.1
3	0	1.7	3	0	6.8	3	0	0.0
4	23	13.5	4	3	15.7	4	0	0.0
5	1	1.5	5	3	14.6	5	0	0.0
6	0	3.6	6	12	9.6	6	0	0.0
総 計							48	178.9

(2) 巡回による調査

① 5月28日～30日調査

	圃場数	被害程度別株数(25株/圃場)					合計
		A	B	C	D	E	
東部平坦	24	30	27	36	115	392	600
東部山間	6	0	0	12	37	101	150
西部平坦	17	0	1	3	15	406	425
西部山間	0	-	-	-	-	-	-
合計	47	30	28	47	122	899	1175
平均		0.6	0.6	1.1	3.6	19.1	25.0
						被害株率(%)	23.5
						被害度	10.1

イネミズゾウムシ被害程度(被害葉率)

A : 91%以上, B : 61~90%, C : 31~60%, D : 1~30%, E : 0

9) コブノメイガ

(1) 予察灯・粘着誘殺灯による成虫の誘殺状況

① 半月別誘殺表

地点	出雲市芦渡町			
	60W白熱		20W粘着	
	本年	平年	本年	平年
月. 半月				
6. 1	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0
7. 1	0	0.0	0	0.1
2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.1	0	0.2
4	0	0.0	0	0.0
5	0	0.1	0	0.0
6	0	0.0	0	0.3
8. 1	0	0.0	0	0.2
2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.1
4	0	0.0	1	0.1
5	0	0.4	0	0.2
6	0	0.2	1	0.2
9. 1	0	0.0	0	1.2
2	0	0.0	1	2.0
3	0	0.0	0	0.2
4	0	0.0	0	0.2
5	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.1
総計	0	0.8	3	5.1

注) 予察灯は4~9月(4~5月はデータ省略)、粘着誘殺灯は6~9月の間設置した。

(2) 定点における調査

① 6月25～26日調査

	圃場数	50株当り成虫数	25株当り被害株数
東部平坦	24	0	0
東部山間	6	0	0
西部平坦	16	0	0
西部山間	0	-	-
合計	46	0	0
平均		0	0
圃場率(%)		0	0
被害株率			0

② 7月25～27日調査

	圃場数	50株当り成虫数	25株当り被害株数
東部平坦	24	0	0
東部山間	6	0	0
西部平坦	16	0	9
西部山間	0	-	-
合計	46	0	9
平均		0	0.2
圃場率(%)		0	13.0
被害株率			0.8

③ 8月26～30日調査

	圃場数	50株当り成虫数	25株当り被害株数
東部平坦	24	0	6
東部山間	0	-	-
西部平坦	16	0	3
西部山間	0	-	-
合計	41	0	9
平均		0	0.2
圃場率(%)		0	17.1
被害株率			0.9

10) セジロウンカ

(1) 予察灯・粘着誘殺灯による成虫の誘殺状況

① 半月別誘殺表

地 点	出雲市 芦渡町			
	60W白熱		20W粘着	
	本 年	平 年	本 年	平 年
月. 半月				
6. 1	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0
4	0	0.4	0	0.2
5	0	13.0	0	0.3
6	0	2.1	0	2.9
7. 1	0	1.9	0	5.3
2	0	7.9	0	61.8
3	0	236.3	1	565.9
4	0	4.1	0	3.8
5	0	2.1	0	7.5
6	0	14.1	1	21.7
8. 1	0	1.9	0	12.4
2	0	3.7	0	15.1
3	0	9.5	0	20.0
4	0	6.8	0	16.7

5	1	6.0	9	17.1
6	0	11.8	184	86.1
9. 1	0	5.6	13	15.1
2	0	18.9	1	5.4
3	0	2.4	1	3.3
4	0	1.7	0	1.1
5	0	1.7	0	0.4
6	0	0.3	1	1.7
総計	1	352.2	211	863.8

注) 予察灯は4～9月(4～5月はデータ省略)、粘着誘殺灯は6～9月の間設置した。

(2) 定点と巡回による調査

① 6月25～26日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	0	4	4
東部山間	6	0	0	0
西部平坦	16	5	27	32
西部山間	0	-	-	-
合計	46	5	31	36
平均		0.1	0.7	0.8
圃場率(%)		8.7	15.2	21.7
成虫比				13.9

注) 調査方法: 25株払い落とし(粘着板使用)

② 7月25～27日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	35	63	98
東部山間	6	4	5	9
西部平坦	16	27	125	152
西部山間	0	-	-	-
合計	46	66	193	259
平均		1.4	4.2	5.6
圃場率(%)		45.7	58.7	60.9
成虫比				25.5

注) 調査方法: 25株払い落とし(粘着板使用)

③ 8月26～30日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	6	9	15
東部山間	0	-	-	-
西部平坦	17	38	57	95
西部山間	0	-	-	-
合計	41	44	66	110
平均		1.1	1.6	2.7
圃場率(%)		41.5	34.1	53.7
成虫比				40.0

注) 調査方法: 25株払い落とし(粘着板使用)

1 1) ツマグロヨコバイ

(1) 予察灯による成虫の誘殺状況

① 半月別誘殺表

地点名 出雲市芦渡町			地点名 出雲市芦渡町			地点名 出雲市芦渡町			
月. 半月	本 年	平 年	月. 半月	本 年	平 年	月. 半月	本 年	平 年	
4. 1	0	0.0	6. 1	0	0.1	8. 1	4	48.8	
2	0	0.0	2	0	0.2	2	1	18.3	
3	0	0.0	3	2	0.4	3	0	29.5	
4	0	0.1	4	0	0.9	4	0	12.0	
5	1	0.0	5	0	3.5	5	0	6.9	
6	0	0.0	6	25	4.3	6	1	13.8	
5. 1	0	1.6	7. 1	23	8.5	9. 1	3	52.1	
2	0	0.4	2	5	9.4	2	4	33.0	
3	0	0.0	3	1	10.4	3	0	43.0	
4	0	0.0	4	10	7.9	4	0	5.8	
5	0	0.0	5	25	66.1	5	0	3.3	
6	0	0.0	6	50	85.9	6	5	1.6	
							総計	160	467.8

(2) 定点と巡回による調査

① 6月25～26日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	16	7	23
東部山間	6	0	2	2
西部平坦	16	1	25	26
西部山間	0	-	-	-
合 計	46	17	34	51
平 均		0.4	0.7	1.1
圃場率 (%)		13.0	26.1	30.4
成虫比				33.3

注) 調査方法：25株払い落とし（粘着板使用）

② 7月25～27日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	56	246	302
東部山間	6	3	28	31
西部平坦	16	36	38	74
西部山間	0	-	-	-
合 計	46	95	312	407
平 均		2.1	6.8	8.8
圃場率 (%)		52.2	45.7	63.0
成虫比				23.3

注) 調査方法：25株払い落とし（粘着板使用）

③ 8月26～30日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	20	89	109
東部山間	0	-	-	-
西部平坦	17	13	71	84
西部山間	0	-	-	-
合 計	41	33	160	193
平 均		0.8	3.6	4.7
圃場率 (%)		19.5	24.4	36.6
成虫比				17.1

注) 調査方法：25株払い落とし（粘着板使用）

12) トビイロウンカ

(1) 予察灯・粘着誘殺灯による成虫の誘殺状況

① 半月別誘殺表

地 点	出雲市芦渡町			
	60W白熱		20W粘着	
	本 年	平 年	本 年	平 年
6. 1 2 3 4 5 6	0	0.0	0	0.0
	0	0.0	0	0.0
	0	0.0	0	0.0
	0	0.0	0	0.0
	0	0.0	0	0.0
	0	0.0	0	0.1
7. 1 2 3 4 5 6	0	0.0	0	0.0
	0	0.3	0	1.1
	0	0.1	0	0.0
	0	0.0	0	0.0
	0	0.0	0	0.0
	0	0.0	0	0.2
8. 1 2 3 4 5 6	0	0.2	0	1.0
	0	0.4	0	0.2
	0	0.5	0	0.1
	0	0.2	0	0.2
	1	0.7	7	2.7
	1	0.6	38	2.3
9. 1 2 3 4 5 6	6	0.3	45	3.2
	2	0.8	25	4.2
	1	0.0	16	1.4
	1	0.1	9	0.3
	1	0.0	0	0.4
	4	0.0	21	0.6
総 計	17	4.2	161	18.0

注) 予察灯は4～9月(4～5月はデータ省略)、粘着誘殺灯は6～9月の間設置した。

(2) 定点と巡回による調査

① 6月25～26日調査

	圃場数	雌成虫		雄成虫		幼虫	合計
		短翅	長翅	短翅	長翅		
東部平坦	24	0	0	0	0	0	0
東部山間	6	0	0	0	0	0	0
西部平坦	16	0	0	0	0	0	0
西部山間	0	-	-	-	-	-	-
合 計	46	0	0	0	0	0	0
平 均		0	0	0	0	0	0
圃場率(%)		0	0	0	0	0	0
成虫比							0

注) 調査方法: 25株払い落とし(粘着板使用)

② 7月25～27日調査

	圃場数	雌成虫		雄成虫		幼虫	合計
		短翅	長翅	短翅	長翅		
東部平坦	24	0	0	2	0	0	2
東部山間	6	0	0	0	0	0	0
西部平坦	16	7	0	2	0	3	12
西部山間	0	-	-	-	-	-	-
合計	46	7	0	4	0	3	14
平均		0.2	0	0.1	0	0.1	0.3
圃場率(%)		4.3	0	6.5	0	6.5	10.9
成虫比							78.6

注) 調査方法：25株払い落とし(粘着板使用)

③ 8月26～30日調査

	圃場数	雌成虫		雄成虫		幼虫	合計
		短翅	長翅	短翅	長翅		
東部平坦	24	1	7	0	8	0	16
東部山間	0	-	-	-	-	-	-
西部平坦	17	6	26	3	29	258	322
西部山間	0	-	-	-	-	-	-
合計	41	7	33	3	37	258	338
平均		0.2	0.8	0.1	0.9	6.3	8.2
圃場率(%)		12.2	41.5	7.3	34.1	19.5	56.1
成虫比							23.7

注) 調査方法：25株払い落とし(粘着板使用)

13) ニカメイガ

(1) 予察灯による成虫の誘殺状況

① 半月別誘殺表

地点名	出雲市芦渡町		地点名	出雲市芦渡町		地点名	出雲市芦渡町				
	月. 半月	本年		平年	月. 半月		本年	平年	月. 半月	本年	平年
4.	1	0	0.0	6.	1	0	8.4	8.	1	0	0.9
	2	0	0.0		2	3	3.1		2	0	1.3
	3	0	0.0		3	1	1.4		3	0	1.3
	4	0	0.0		4	1	1.1		4	0	0.6
	5	1	0.4		5	0	0.4		5	0	0.2
	6	0	0.0		6	0	0.0		6	0	0.9
5.	1	1	0.2	7.	1	0	0.1	9.	1	0	0.2
	2	0	0.4		2	0	0.0		2	0	0.2
	3	1	1.1		3	0	0.1		3	0	0.0
	4	6	2.2		4	0	0.5		4	0	0.3
	5	1	6.6		5	0	1.4		5	0	0.0
	6	11	15.7		6	0	4.3		6	0	0.0
							総計	26	53.3		

②半旬別誘殺表（フェロモントラップ）

地 点	出雲市芦渡町		地 点	出雲市芦渡町	
	本 年	平 年		本 年	平 年
月. 半旬			月. 半旬		
4. 1	0	0.0	7. 1	3	0.4
2	0	0.0	2	1	0.2
3	0	0.2	3	0	0.3
4	1	0.1	4	8	0.2
5	0	0.4	5	5	0.7
6	2	1.0	6	2	3.5
5. 1	-	2.0	8. 1	2	4.4
2	5	8.4	2	12	2.0
3	1	9.6	3	2	0.6
4	4	9.8	4	9	3.5
5	1	29.6	5	5	1.5
6	1	27.4	6	20	2.3
6. 1	0	24.2	9. 1	13	1.5
2	18	9.0	2	10	1.5
3	3	7.3	3	3	0.5
4	3	2.1	4	1	0.1
5	2	1.1	5	5	1.2
6	1	1.1	6	1	0.7
			総 計	144	158.4

(2) 定点と巡回による調査

調査日	6月25～26日		7月25～27日		8月26～30日	
	圃場数	被害株数	圃場数	被害株数	圃場数	被害株数
東部平坦	24	0	24	0	24	0
東部山間	6	0	6	0	0	-
西部平坦	16	0	16	0	17	0
西部山間	0	-	0	-	0	-
合計	46	0	46	0	41	0
平 均		0		0		0
圃場率(%)		0		0		0
被害株率(%)		0		0		0

注) 調査方法：25株見取り調査

14) カメムシ類

(1) 予察灯によるアカスジカスミカメ成虫の誘殺状況

① 半月別誘殺表

地点名 月. 半月	出雲市芦渡町		地点名 月. 半月	出雲市芦渡町		地点名 月. 半月	出雲市芦渡町	
	本年	平年		本年	平年		本年	平年
4. 1	0	0.0	6. 1	0	0.7	8. 1	12	119.7
2	0	0.0	2	2	0.8	2	7	13.4
3	0	0.0	3	0	1.9	3	2	8.9
4	0	0.0	4	0	3.1	4	0	6.7
5	0	0.0	5	2	4.4	5	0	7.2
6	0	0.0	6	4	14.1	6	0	5.9
5. 1	0	0.0	7. 1	4	19.8	9. 1	7	4.5
2	0	0.0	2	12	26.7	2	16	1.6
3	0	0.1	3	1	19.2	3	3	1.9
4	0	0.0	4	35	16.9	4	0	0.5
5	0	0.5	5	30	22.7	5	0	0.4
6	1	0.9	6	32	19.8	6	15	1.1
総計							185	223.4

(2) 巡回による調査

① 6月26～27日調査 (畦畔・雑草地など)

圃場数	すくい取り虫数 (20回振り・成幼虫)						合計	
	ホソハ	シラホシ	トゲシラホシ	クモハリ	アカスジ	アカヒゲ		
平均	18	0.17	0	0	0	5.61	1.28	7.06
採取圃場率(%)		11.1	0	0	0	44.1	36.9	55.6

② 7月27～31日調査 (コシヒカリが出穂した圃場)

圃場数	すくい取り虫数 (20回振り・成幼虫)						合計	
	ホソハ	シラホシ	トゲシラホシ	クモハリ	アカスジ	アカヒゲ		
平均	48	0.50	0.02	0.06	0.73	3.35	0.21	1.48
採取圃場率(%)		12.5	2.1	4.2	18.8	50.0	6.3	37.5

15) ヒメトビウンカ

(1) 予察灯による成虫の誘殺状況

① 半月別誘殺表

地点名 月. 半月	出雲市芦渡町		地点名 月. 半月	出雲市芦渡町		地点名 月. 半月	出雲市芦渡町	
	本年	平年		本年	平年		本年	平年
4. 1	0	0.0	6. 1	0	0.0	8. 1	0	0.4
2	0	0.0	2	0	0.0	2	0	0.1
3	0	0.0	3	0	0.0	3	0	0.2
4	0	0.0	4	0	0.0	4	0	0.3
5	0	0.0	5	0	0.0	5	1	0.0
6	0	0.0	6	0	0.0	6	0	0.4
5. 1	0	0.0	7. 1	0	0.0	9. 1	1	0.0
2	0	0.0	2	0	0.0	2	0	0.1
3	0	0.0	3	0	0.1	3	0	0.0
4	0	0.0	4	0	0.0	4	0	0.1
5	0	0.1	5	0	0.0	5	0	0.0
6	0	0.0	6	0	0.3	6	0	0.0
総計							2	2.1

(2) 定点と巡回による調査

① 6月25～26日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	3	2	5
東部山間	6	5	0	5
西部平坦	16	17	69	86
西部山間	0	-	-	-
合計	46	25	71	99
平均		0.5	1.5	2.1
圃場率(%)		34.8	21.7	43.5
成虫比				22.0

注) 調査方法：25株払い落とし（粘着板使用）

② 7月25～27日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	28	37	65
東部山間	6	5	2	7
西部平坦	16	110	155	265
西部山間	0	-	-	-
合計	46	143	194	337
平均		3.1	4.2	7.3
圃場率(%)		60.9	47.8	63.0
成虫比				42.4

注) 調査方法：25株払い落とし（粘着板使用）

③ 8月26～30日調査

	圃場数	成虫	幼虫	合計
東部平坦	24	30	39	69
東部山間	0	-	-	-
西部平坦	17	68	139	207
西部山間	0	-	-	-
合計	41	98	178	279
平均		2.4	4.3	6.7
圃場率(%)		75.6	70.7	87.8
成虫比				35.5

注) 調査方法：25株払い落とし（粘着板使用）

16) フタオビコヤガ

(1) 定点と巡回による調査

調査日	6月25～26日		7月25～27日		8月26～30日	
	圃場数	被害株数	圃場数	被害株数	圃場数	被害株数
東部平坦	24	3	24	0	24	0
東部山間	6	0	6	0	0	-
西部平坦	16	0	16	0	17	0
西部山間	0	-	0	-	0	-
合計	46	0	46	0	41	0
平均		0.1		0		0
圃場率(%)		6.5		0		0
被害株率(%)		0.3		0		0

注) 調査方法：25株見取り調査

(II) ムギ

1. ムギの生育状況

1) 生育概況

令和元年産の麦作にあつては、好天に恵まれたため、ほ場準備が順調に行われた、播種作業は10月下旬から11月下旬の間に行われた。発芽とその後の生育も良好であった。1月になつても好天に恵まれ、引き続き生育は良好。茎数も平年よりやや多く、幼穂形成期も7～10日程度早くなつた。出穂は二条大麦、はだか麦で3月下旬から4月上旬、小麦で4月上旬頃となり、3麦ともに作期の前進化が進み、併せて茎数（穂数）が多くなつた。病害は出穂以降の好天や適期防除などにより少なかった。好天が続いたため、収穫作業も順調に行われ、二条大麦、はだか麦で5月中旬から6月上旬まで、小麦で6月上旬から順調に行われ、収量・品質ともに良好となつた。なお、梅雨入りは6月26日と平年より19日遅く、梅雨明けも7月25日と4日遅くなつた。

2) 作柄及び検査概況

播種以降好天に恵まれたため穂数が例年より多く、収穫期も引き続き好天に恵まれたため、小麦、二条大麦、はだか麦ともに豊作となつた。収量の平年対比は小麦が141%、二条大麦は130%、はだか麦は163%であつた。品質も収穫時期が好天に恵まれ、順調に収穫できたため、平年に比べ高品質となつた。

(2019年産水稻・麦類・大豆の作柄概況（農業技術センター技術普及部）より抜粋)

2) 生育状況調査

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

品 種 名	H31年 3月20日		3月29日	4月9日
	草 丈	茎数 (100cm)	草 丈	草 丈
サチホゴールド 農林61号	64.7 cm 85.2	96.7 本 73.7	69.8 cm 89.0	73.4 cm 94.4

注) 播種日と出穂期

サチホゴールド：H30年11月5日、H31年3月24日

農林61号：H30年11月1日、H31年3月25日

2. 病害虫に関する調査結果

1) さび病類、うどんこ病、斑葉病、雲形病、赤かび病

(1) 発病状況調査

① 定点における調査

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

品 種 名	さび病類			うどんこ病		
	4月9日	4月23日	5月16日	4月9日	4月23日	5月16日
サチホゴールド 農林61号	0 % 0	0 % 0	0 % 0	0 % 0	0 % 0	0 % 0

注) 表中の数字は発病茎率

雲形病、斑葉病、赤かび病の発生はみられなかった。

②巡回による調査

ア. オオムギ(二条)

調査月日	調査場所	調査圃場数	小さび病		うどんこ病		赤かび病		斑葉病	
			発生圃場率	発病莖率	発生圃場率	発病莖率	発生圃場率	発病莖率	発生圃場率	発病莖率
31.3.26	出雲市	45	0 %	0 %	0 %	0 %	- %	- %	0 %	0 %
4.23	出雲市	45	0	0	0	0	0	0	0	0
5.07	出雲市	45	0	0	0	0	0	0	0	0
5.16	出雲市	45	0	0	0	0	0	0	0	0

注) 黄さび病、雲形病の発生は認められなかった。

イ. オオムギ(六条)

調査月日	調査場所	調査圃場数	小さび病		うどんこ病		赤かび病		雲形病	
			発生圃場率	発病莖率	発生圃場率	発病莖率	発生圃場率	発病莖率	発生圃場率	発病莖率
31.3.26	出雲市	10	0 %	0 %	0 %	0 %	- %	- %	0 %	0 %
4.23	出雲市	10	0	0	0	0	0	0	0	0
5.07	出雲市	10	0	0	0	0	0	0	0	0
5.16	出雲市	10	0	0	0	0	0	0	0	0

注) 黄さび病、斑葉病の発生は認められなかった。

ウ. コムギ

調査月日	調査場所	調査圃場数	赤さび病		黄さび病		赤かび病	
			発生圃場率	発病莖率	発生圃場率	発病莖率	発生圃場率	発病莖率
31.3.25	出雲市	20	0 %	0 %	0 %	0 %	- %	- %
	松江市	20	0	0	0	0	-	-
4.22	出雲市	20	0	0	0	0	0	0
	松江市	20	0	0	0	0	0	0
5.16	出雲市	20	0	0	0	0	10.0	0.1
5.20	松江市	20	25.0	1.1	5.0	0.1	0	0

注) うどんこ病の発生は認められなかった。

(Ⅲ) ダイズ

1. ダイズの生育状況

1) 生育概況

播種は早いところで5月下旬から始まり、梅雨明け後播種のものが7月下旬頃に終了した。

梅雨入りが6月26日と例年より19日遅かったこともあり、播種作業は順調に進み、初期生育も順調であった。梅雨明けは7月25日と平年より4日遅くなり、この時期には5月下旬播種のものではすでに開花が始まっているほ場も見受けられた。なお、梅雨期間の降水量は平年より少なめであった。

梅雨明け以降は殆ど降水がない日が続き、7月第6半旬から8月第3半旬の20日間の降水量は平年の12%と極端な渇水状況となったため、中耕・培土作業は順調に行われたが、一部では畝間灌水による干ばつ被害防止対策がとられた。

なお、この時期に極端な乾燥ストレスを受けたほ場では、落花や落莢により着莢数が減少し、青立ちによる収量低下を招いた。

2) 作柄及び検査概況

収穫作業については11月上旬からの好天により順調に進み、落葉が遅くなった一部のほ場を除き、年内に収穫作業を終えることが出来た。

なお、品質については、9月下旬から10月下旬の登熟後期に降雨が続いたため、紫斑病による被害粒やカメムシ類の加害痕からカビが侵入する腐敗粒が一部で発生している。生育期間全般にわたって好天であったものの、病虫害による影響がどの程度収量、品質に影響してくるのかわかりません。

(2019年産水稻・麦類・大豆の作柄概況(農業技術センター技術普及部)より抜粋)

2. 病虫害に関する調査結果

1) アブラムシ類

(1) 黄色水盤による有翅虫の有殺状況

① 半旬別誘殺数

イチゴのアブラムシ類の項参照。

2) 吸実性カメムシ類

(1) パネルトラップによる調査(出雲市芦渡町)

調査月日	アオクサ カメムシ	イチモンジ カメムシ	ホソヘリ カメムシ
6月20日	0	6	19
7月6日	0	4	15
7月15日	0	0	0
7月25日	0	2	13
8月9日	0	1	3
8月15日	1	0	3
8月23日	0	1	4
8月31日	0	4	11
9月6日	0	2	14
9月17日	0	4	13
9月23日	0	2	51
10月1日	0	2	2
10月10日	1	10	5
10月15日	0	2	14
10月20日	1	2	20
10月29日	0	2	5
11月4日	0	6	22
11月8日	0	15	7

3) ハスモンヨトウ

(1) フェロモントラップによる雄成虫の誘殺状況
キャベツのハスモンヨトウの項に掲載。

(2) 被害状況調査

①巡回による調査 (斐川地区)

調査月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	1a当り白変か所数
R1.8.23	20	10	0.1

II) 果樹

※圃場No. は連番とはせず、過去の調査と比較しやすいように固有番号としている。

(I) ナシ

1. 病害虫に関する調査結果

1) 黒斑病、黒星病

(1) 発病状況調査 (1 圃場10新梢の全葉について調査。4月下旬、5月上旬は幼果について1圃場100果実調査)

① 定点における調査

地区予察圃場 (安来市中津町、二十世紀、慣行散布) 調査結果は圃場NO. 7に記載。

② 巡回による調査 (安来市、慣行散布)

ア. 2019年4月23日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	黒斑病		黒星病			
					発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病度	調査 果実数	発病果率 (%)
5	二十世紀	60	0	60	0	0	0	0	100	0
7	二十世紀	61	0	61	0	0	0	0	100	0
8	二十世紀	68	0	68	0	0	0	0	100	0
10	二十世紀	60	0	60	0	0	0	0	100	0
14	二十世紀	64	0	64	0	0	0	0	100	0
15	二十世紀	56	0	56	0	0	0	0	100	0
17	二十世紀	70	0	70	0	0	0	0	100	0
18	幸水	57	0	57	未調査	未調査	0	0	100	0
平均		62	0	62	0	0	0	0	100	0

イ. 2019年5月8日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	黒斑病		黒星病			
					発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病度	調査 果実数	発病果率 (%)
5	二十世紀	103	0	103	0	0	0	0	100	0
7	二十世紀	83	0	83	0	0	0	0	100	0
8	二十世紀	87	0	87	0	0	0	0	100	0
10	二十世紀	78	0	78	0	0	0	0	100	0
14	二十世紀	86	0	86	0	0	0	0	100	0
15	二十世紀	81	0	81	0	0	0	0	100	0
17	二十世紀	92	0	92	0	0	0	0	100	0
18	幸水	90	0	90	未調査	未調査	0	0	100	0
平均		88	0	88	0	0	0	0	100	0

ウ. 2019年5月29日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	黒斑病		黒星病	
					発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病度
5	二十世紀	139	0	139	0	0	0	0
7	二十世紀	128	0	128	0.8	0.2	0	0
8	二十世紀	133	0	133	3.1	0.8	0	0
10	二十世紀	130	0	130	0	0	0	0
14	二十世紀	154	0	154	0	0	0	0
15	二十世紀	104	0	104	0	0	0	0
17	二十世紀	131	0	131	0	0	0	0
18	幸水	105	0	105	未調査	未調査	0	0
平均		128	0	128	0.6	0.1	0	0

エ. 2019年6月27日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	黒斑病		黒星病	
					発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病度
5	二十世紀	197	0	197	3.6	0.9	0	0
7	二十世紀	172	0	172	9.9	2.5	0	0
8	二十世紀	183	0	183	20.8	5.5	0.5	0.1
10	二十世紀	171	0	171	2.9	0.9	0	0
14	二十世紀	195	0	195	5.1	1.3	0	0
15	二十世紀	207	0	207	4.8	1.2	0	0
17	二十世紀	225	0	225	0	0	0	0
18	幸水	198	0	198	未調査	未調査	0.5	0.1
平均		193	0	193	6.7	1.7	0.1	0.0

オ. 2019年7月31日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	黒斑病		黒星病	
					発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病度
5	二十世紀	161	0	161	1.9	0.5	0	0
7	二十世紀	206	3.9	198	16.2	6.3	0	0
8	二十世紀	202	1.0	200	29.5	10.9	1.0	0.3
10	二十世紀	201	0	201	6.5	2.1	1.5	0.4
14	二十世紀	227	0	227	12.3	4.6	0	0
15	二十世紀	263	0	263	2.7	0.7	0	0
17	二十世紀	241	0	241	2.5	0.6	0	0
18	幸水	201	0	201	未調査	未調査	1.5	0.4
平均		213	0.6	212	10.2	3.7	0.5	0.1

カ. 2019年8月29日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	黒斑病		黒星病	
					発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病度
5	二十世紀	186	0	161	3.2	0.8	0	0
7	二十世紀	203	11.8	179	25.7	10.8	0	0
8	二十世紀	283	6.4	265	17.0	6.1	0	0
10	二十世紀	190	1.6	187	7.5	2.1	0	0
14	二十世紀	250	0	250	10.0	3.8	0	0
15	二十世紀	244	0	244	0.8	0.2	0	0
17	二十世紀	204	0	204	3.4	0.9	0	0
18	幸水	165	0	165	未調査	未調査	0.6	0.2
平均		216	2.5	210	9.7	3.5	0.1	0.0

2) ナシヒメシンクイ

(1) 予察灯による成虫の誘殺状況

① 半旬別誘殺表

月 ・ 半旬	県予察圃場 (出雲市芦渡町)				地区予察圃場 (安来市中津町)	
	水銀灯 (100W)		フェロモントラップ		フェロモントラップ	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4.1	0	0.0	0	0.3	0	0.0
2	0	0.0	0	0.2	0	0.9
3	0	0.0	2	1.8	0	28.8
4	0	0.0	0	4.5	0	13.1
5	0	0.0	3	3.8	0	31.8
6	0	0.0	7	6.0	31	14.7
5.1	0	0.0	5	5.4	22	26.5
2	0	0.0	2	3.2	14	29.4
3	0	0.0	2	1.8	7	15.7
4	0	0.0	0	2.0	8	10.6
5	0	0.0	0	0.4	3	16.3
6	0	0.0	3	1.2	1	6.6
6.1	0	0.0	0	1.1	30	6.7
2	0	0.0	2	5.9	30	7.0
3	0	0.0	4	3.0	48	18.4
4	0	0.0	0	1.5	0	19.2
5	0	0.0	0	0.8	16	29.1
6	0	0.0	0	0.4	26	35.7
7.1	0	0.0	0	1.0	21	4.6
2	0	0.0	3	1.3	19	22.0
3	0	0.0	0	0.6	8	11.0
4	0	0.0	0	4.6	11	30.6
5	0	0.0	1	4.2	10	22.9
6	0	0.0	0	2.1	8	20.4
8.1	0	0.0	0	0.4	41	2.1
2	0	0.0	0	2.3	22	14.2
3	0	0.0	0	2.1	0	14.7
4	0	0.0	0	0.4	25	17.9
5	0	0.0	0	0.6	22	9.1
6	0	0.1	1	0.3	0	11.7
9.1	0	0.0	3	1.2	0	10.6
2	0	0.1	0	1.6	0	7.0
3	0	0.0	3	1.8	0	2.5
4	0	0.0	0	0.2	0	1.8
5	0	0.0	0	0.0	0	1.7
6	0	0.0	0	0.0	0	0.7
10.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.2	41	68.0	423	516.0

3) ナシオオシンクイガ

(1) 予察灯による成虫の誘殺状況

月 ・ 半旬	県予察圃場 (出雲市芦渡町)		月 ・ 半旬	県予察圃場 (出雲市芦渡町)	
	本 年	平 年		本 年	平 年
4. 1	0	0.0	8. 1	0	0.0
2	0	0.0	2	0	0.0
3	0	0.0	3	0	0.0
4	0	0.0	4	0	0.0
5	0	0.0	5	0	0.0
6	0	0.0	6	0	0.0
5. 1	0	0.0	9. 1	0	0.0
2	0	0.0	2	0	0.0
3	0	0.0	3	0	0.0
4	0	0.0	4	0	0.0
5	0	0.0	5	0	0.0
6	0	0.0	6	0	0.0
6. 1	0	0.0	10. 1	0	0.0
2	0	0.0	2	0	0.0
3	0	0.0	3	0	0.0
4	0	0.0	4	0	0.0
5	0	0.0	5	0	0.0
6	0	0.0	6	0	0.0
7. 1	0	0.0	合計	0	0.0
2	0	0.0			
3	0	0.0			
4	0	0.0			
5	0	0.0			
6	0	0.0			

4) モモシンクイガ

(1) フェロモントラップによる雄成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺表 (モモシンクイガ)

月 ・ 半旬	県予察圃場 (出雲市芦渡町)		地区予察圃場 (安来市中津町)		月 ・ 半旬	県予察圃場 (出雲市芦渡町)		地区予察圃場 (安来市中津町)	
	本年	平年	本年	平年		本年	平年	本年	平年
5. 1	0	0.0	0	0.0	8. 1	0	0.0	0	8.1
2	0	0.0	0	0.0	2	0	0.0	0	8.3
3	0	0.0	0	0.0	3	0	0.0	0	23.0
4	0	0.0	0	0.0	4	0	0.0	8	9.4
5	0	0.0	0	0.0	5	0	0.0	0	16.3
6	0	0.0	1	1.5	6	0	0.0	7	9.4
6. 1	0	0.0	4	6.0	9. 1	0	0.0	0	2.0
2	0	0.0	16	16.2	2	0	0.0	0	1.3
3	0	0.0	3	20.4	3	0	0.0	0	1.6
4	0	0.0	8	15.9	4	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	10	23.7	5	0	0.0	0	0.9
6	0	0.0	22	23.5	6	0	0.0	0	0.0
7. 1	0	0.0	20	17.6	10. 1	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	13	17.6	2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	3	7.5	3	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	7	14.6	4	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	7	10.1	5	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	13.1	6	0	0.0	0	0.0
			合計			0	0.0	129	268.0

5) チャノコカクモンハマキ

(1) 成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺表

月 半旬	県予察圃場（出雲市芦渡町）				月 半旬	県予察圃場（出雲市芦渡町）			
	水銀灯(100W)		フェロモントラップ ^o			水銀灯(100W)		フェロモントラップ ^o	
	本年	平年	本年	平年		本年	平年	本年	平年
4. 1	0	0.0	0	0.0	8. 1	0	0.0	0	0.8
2	0	0.0	0	0.3	2	1	0.4	2	1.5
3	0	0.0	2	0.3	3	0	0.6	0	0.8
4	0	0.0	2	2.4	4	2	0.7	0	1.1
5	0	0.1	0	2.8	5	0	0.1	5	1.2
6	0	0.0	0	4.2	6	0	0.8	1	0.7
5. 1	0	0.4	3	5.5	9. 1	3	0.4	0	0.7
2	5	0.1	11	5.3	2	1	1.0	3	1.8
3	0	0.7	5	2.2	3	0	1.0	0	0.7
4	0	1.1	8	1.5	4	0	0.7	0	1.1
5	1	0.6	1	2.6	5	0	0.5	2	0.4
6	0	0.3	0	1.3	6	0	0.1	0	0.0
6. 1	1	0.0	0	0.9	10. 1	0	0.3	0	0.0
2	0	0.8	0	1.6	2	0	0.0	0	0.0
3	0	0.6	3	1.1	3	0	0.1	0	0.0
4	0	0.8	4	3.5	4	0	0.3	0	0.0
5	2	0.8	1	0.8	5	0	0.0	0	0.0
6	0	0.3	0	0.8	6	0	0.0	0	0.8
7. 1	2	0.4	2	1.1	合 計	19	17.3	64	57.6
2	0	0.8	0	1.3					
3	0	0.8	6	1.3					
4	1	0.3	0	2.9					
5	0	1.1	3	1.5					
6	0	0.3	0	0.8					

6) チャハマキ

(1) 成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺表

月 ・ 半旬	県予察圃場（出雲市芦渡町）				月 ・ 半旬	県予察圃場（出雲市芦渡町）			
	水銀灯(100W)		フェロモントラップ ^o			水銀灯(100W)		フェロモントラップ ^o	
	本年	平年	本年	平年		本年	平年	本年	平年
4. 1	0	0.0	0	0.0	8. 1	0	0.4	0	0.0
2	0	0.0	0	0.1	2	0	0.5	0	0.5
3	0	0.0	0	1.1	3	0	0.6	0	1.4
4	0	0.0	0	3.0	4	0	0.7	0	0.5
5	0	0.0	4	2.0	5	5	0.5	0	0.3
6	0	0.0	3	1.4	6	0	0.9	0	0.6
5. 1	0	0.0	1	1.6	9. 1	0	0.1	4	0.3
2	0	0.2	2	1.8	2	0	0.3	7	0.8
3	0	0.6	4	2.3	3	0	0.9	8	0.0
4	1	0.6	0	0.4	4	0	0.4	3	0.0
5	0	0.4	0	1.9	5	0	0.3	12	0.1
6	2	0.4	0	0.6	6	0	0.3	6	0.0
6. 1	2	0.5	0	0.8	10. 1	0	0.2	1	0.1
2	0	0.4	0	1.1	2	0	0.0	3	0.4
3	0	0.9	0	0.9	3	0	0.0	0	0.3
4	0	0.7	0	0.5	4	0	0.0	0	0.0
5	1	1.0	0	0.7	5	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.8	6	0	0.0	0	0.0
7. 1	0	0.4	1	0.8	合 計	17	14.1	62	32.2
2	0	0.4	0	0.9					
3	4	1.0	0	0.9					
4	0	0.0	2	1.7					
5	2	0.2	0	1.1					
6	0	0.3	1	0.5					

7) ハダニ類、カイガラムシ類

(1) 越冬バンドトラップによる越冬密度調査

調査場所	カンザワハダニ		クワコナカイガラムシ	
	本年	平年	本年	平年
中津町地区圃	0.0	0.1	0.0	0.0
" 2	0.0	0.2	0.0	0.0
" 3	0.0	0.1	0.0	0.0
" 4	0.0	0.0	0.0	0.0
島田町 1	0.0	2.3	0.0	0.0
" 2	0.0	0.0	0.0	0.0
" 3	0.0	0.0	0.0	0.0
" 4	0.0	0.1	0.0	0.0
平均	0.0	2.8	0.0	0.00

- 注) 1. トラップは幅20cmのクラフト紙を太枝に巻き付けた。
2. 1圃3個設置。トラップ当り虫数。

(2) 発生状況調査

①巡回による調査(特定圃場)

調査月日	4/23	5/30		6/23		7/15		8/28	
圃場 No.	花叢率	寄生 葉率	寄生 虫数	寄生 葉率	寄生 虫数	寄生 葉率	寄生 虫数	寄生 葉率	寄生 虫数
地区予察圃 1	0.0	2.0	2.5	8.0	10.0	8.0	10.0	6.0	7.5
2	6.0	0.0	0.0	16.0	25.0	30.0	25.0	14.0	17.5
3	0.0	0.0	0.0	4.0	5.0	4.0	5.0	2.0	7.5
島田 1	0.0	0.0	0.0	6.0	7.5	4.0	7.5	30.0	47.5
2	30.0	7.7	10.0	12.2	42.5	8.0	42.5	28.0	35.0
3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	7.5
4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均	5.1	1.4	1.8	6.6	12.9	7.7	12.9	12.3	17.5

- 注) 1. 50花叢・50葉調査
2. 寄生雌成虫数は寄生程度別葉数から算出
寄生程度
A: 1 ~ 5 頭/葉 虫数 = 2.5A + 7.5B + 15C + 25D
B: 6 ~ 10
C: 11 ~ 20
D: 21 ~
E: 0

8) アブラムシ類

(1) 発生状況調査

①巡回による調査(特定圃場)

調査月日	4/23		5/31		6/23	
圃場No.	寄生梢率	寄生度	寄生梢率	寄生度	寄生梢率	寄生度
地区予察圃場 1	0.0	0.0	12.0	2.0	0.0	0.0
2	4.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0
3	2.0	0.5	4.0	1.0	2.0	0.5
島田 1	0.0	0.0	7.4	1.9	0.0	0.0
2	2.0	0.5	0.0	2.7	4.0	1.0
3	2.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0
4	0.0	0.5	0.0	0.0	4.0	1.0
平均	1.4	0.5	3.3	1.1	1.4	0.4

- 注) 1. 圃場当り50梢調査。

$$2. \text{寄生度} = \frac{4A + 3B + 2C + D}{4 \times N (\text{調査新梢数})} \times 100$$

A: 先端4葉全てに寄生
B: " 3葉に寄生
C: " 2葉 "
D: " 1葉 "
E: 寄生なし

(II) カキ

1. 病害虫に関する調査結果

1) 炭疽病

(1) 発病状況調査

(6～8月に1圃場1樹50新梢、7～10月に1圃場1樹50果実について調査)

① 定点における調査

地区予察圃場(出雲市東福町、富有、慣行散布) 調査結果は圃場NO. 1に記載

② 巡回による調査(出雲市、慣行散布)

2) うどんこ病、円星落葉病、角斑落葉病、灰色かび病

(1) 発病状況調査(1圃場1樹10新梢の全葉について調査。灰色かび病については7月に1圃場1樹50果実について調査)

① 定点における調査

地区予察圃場(出雲市東福町、富有、慣行散布) 調査結果は圃場NO. 1に記載

② 巡回による調査(出雲市、慣行散布)

ア. 2019年4月24日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	灰色かび病	
					発病葉率 (%)	
1	富有	63	0	63	0	
6	西条	48	0	48	0	
8	西条	51	0	51	2.0	
10	富有	57	0	57	0	
11	富有	59	0	59	0	
12	富有	56	0	56	0	
13	富有	56	0	56	0	
14	富有	64	0	64	0	
平均		57	0	57	0.3	

イ. 2019年5月27日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	うどんこ病		灰色かび病
					発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)
1	富有	75	0	75	0	0	0
6	西条	84	0	84	0	0	0
8	西条	78	0	78	0	0	1.3
10	富有	78	0	78	0	0	0
11	富有	91	0	91	0	0	0
12	富有	79	0	79	0	0	0
13	富有	89	0	89	0	0	0
14	富有	88	0	88	0	0	0
平均		83	0	83	0	0	0.2

ウ. 2019年6月24日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	炭疽病		うどんこ病		灰色かび病	
					発病枝率 (%)	発病果率 (%)	発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病果率 (%)
1	富有	105	0	105	0	0	0	0	0	0
6	西条	91	0	91	0	0	0	0	0	0
8	西条	72	0	72	0	0	0	0	1.4	0
10	富有	75	0	75	0	0	0	0	0	0
11	富有	102	0	102	0	0	0	0	0	0
12	富有	82	0	82	0	0	0	0	0	0
13	富有	103	0	103	0	0	0	0	0	0
14	富有	107	0	107	0	0	0	0	0	0
平均		92	0	92	0	0	0	0	0.2	0

エ. 2019年7月29日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	炭疽病		うどんこ病		灰色かび病	
					発病枝率 (%)	発病果率 (%)	発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病果率 (%)
1	富有	98	0	98	0	0	0	0	0	0
6	西条	86	0	86	0	0	4.7	1.2	0	0
8	西条	80	0	80	0	0	0	0	0	0
10	富有	89	0	89	0	0	3.4	1.1	0	2.0
11	富有	101	0	101	0	0	0	0	0	0
12	富有	108	0	108	0	0	0	0	0	0
13	富有	104	0	104	0	0	1.0	0.2	0	0
14	富有	107	0	107	0	0	3.7	0.9	0	0
平均		97	0	97	0	0	1.6	0.4	0	0.3

オ. 2019年8月27日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	炭疽病		うどんこ病	
					発病枝率 (%)	発病果率 (%)	発病葉率 (%)	発病度
1	富有	85	0	85	0	0	0	0
6	西条	88	0	88	0	0	0	0
8	西条	72	0	72	0	0	1.4	0.4
10	富有	88	0	88	0	0	3.4	0.9
11	富有	98	0	98	0	0	0	0
12	富有	97	0	97	0	0	0	0
13	富有	75	0	75	0	0	0	0
14	富有	101	0	101	0	0	2.0	0.5
平均		88	0	88	0	0	0.9	0.2

カ. 2019年10月2日調査

圃場 No.	品種	調査 葉数	落葉数 (%)	調査 生葉数	炭疽病	うどんこ病		円星落葉病		角斑落葉病	
					発病果率 (%)	発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病度	発病葉率 (%)	発病度
1	富有	82	0	82	0	20.7	6.7	0	0	0	0
6	西条	90	2.2	88	0	11.4	3.7	0	0	0	0
8	西条	78	0	78	0	15.4	4.2	0	0	0	0
10	富有	85	0	85	0	28.2	12.6	0	0	0	0
11	富有	101	2.0	99	0	0	0	0	0	0	0
12	富有	107	0	107	0	0	0	0	0	0	0
13	富有	102	0	102	0	0	0	0	0	0	0
14	富有	113	0	113	0	31.0	14.8	0	0	0	0
平均		95	0.5	94	0	13.3	5.3	0	0	0	0

3) カキミガ

(1) 予察灯による成虫の誘殺状況

県予察圃場（出雲市芦渡町）での誘殺は認めなかった。

(2) 被害の発生消長調査

出雲市の一般圃場5園において5月下旬～8月下旬に5回各園100果について調査を行ったが被害は認めなかった。

4) カメムシ類

(1) 予察灯による成虫の誘殺状況 (水銀灯100W)

○県予察圃場 (出雲市芦渡町)

月 ・ 半旬	チャバネアカメムシ		クサギカメムシ		ツヤアカメムシ		アオクサカメムシ	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5. 1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.3	0	0.0	0	0.0
3	0	19.7	0	1.4	0	1.3	0	0.1
4	6	28.1	1	8.5	0	6.2	0	0.0
5	4	1.9	0	0.3	0	3.3	0	0.0
6	19	4.2	0	0.9	2	2.7	0	0.0
6. 1	0	1.3	0	0.2	0	0.8	0	0.0
2	0	1.2	0	0.6	0	0.8	0	0.0
3	0	6.3	2	0.7	0	6.6	0	0.0
4	0	4.0	0	0.3	0	2.2	0	0.0
5	36	5.7	0	0.3	0	4.9	0	0.1
6	47	12.5	13	2.7	9	7.7	0	0.1
7. 1	0	62.8	0	8.0	0	7.5	0	0.1
2	0	43.8	2	13.2	0	10.8	0	0.3
3	0	55.7	0	21.4	0	8.9	0	0.6
4	0	110.9	0	41.7	0	8.0	0	0.3
5	0	81.5	0	47.9	0	11.7	0	1.7
6	38	116.3	101	59.5	13	9.7	0	1.0
8. 1	14	106.4	46	55.7	4	18.1	0	0.5
2	32	113.2	43	54.8	28	23.5	0	0.6
3	65	142.4	18	53.3	76	46.7	0	0.2
4	171	192.9	77	50.4	60	58.9	1	0.1
5	180	179.4	29	48.6	159	29.4	0	0.2
6	74	111.0	7	26.6	32	27.6	0	0.0
9. 1	92	26.0	9	3.3	13	8.0	0	0.1
2	72	16.1	11	1.3	11	3.9	0	0.0
3	189	50.8	20	2.3	29	14.2	0	0.0
4	71	14.1	0	0.4	0	10.9	0	0.0
5	18	10.4	0	0.1	2	10.9	0	0.0
6	72	0.0	4	0.0	40	0.2	0	0.0
10. 1	0	0.7	0	0.0	32	2.6	0	0.0
2	0	3.6	0	0.0	0	2.5	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.3	0	0.0
5	0	0.0	0	1.1	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0
合計	1200	1522.9	383	505.9	510	350.9	1	6.0

5) チャノコカクモンハマキ

(1) 予察灯・フェロモントラップによる成虫の誘殺状況
ナシのチャノコカクモンハマキの項に掲載

6) チャハマキ

(1) 予察灯・フェロモントラップによる成虫の誘殺状況
ナシのチャハマキの項に掲載

7) カキクダアザミウマ

(1) 粘着トラップによる誘殺状況

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

①越冬成虫の誘殺状況

月 日	誘殺数	月 日	誘殺数	月 日	誘殺数
4. 11	0	4. 21	0	5. 1	0
12	0	22	0	2	0
13	0	23	0	3	0
14	0	24	0	4	0
15	0	25	0	5	0
16	0	26	0	6	0
17	0	27	0	7	0
18	0	28	0	8	0
19	0	29	0	9	0
20	0	30	0	10	0
				合 計	0

②第1世代成虫の誘殺状況

月. 半旬	本年	平年	月. 半旬	本年	平年	月. 半旬	本年	平年	
6. 1	0	0.3	7. 1	1	1.5	8. 1	0	0.0	
2	3	1.4	2	0	0.2	2	0	0.0	
3	2	1.7	3	0	0.0	3	0	0.0	
4	1	0.5	4	0	0.0	4	0	0.0	
5	0	0.3	5	0	0.0	5	0	0.0	
6	1	1.4	6	0	0.0	6	0	0.0	
							合 計	8	7.3

8) フジコナカイガラムシ

(1) フェロモントラップによる誘殺状況（一般圃場：出雲市東福町）

月. 半旬	誘殺数	月. 半旬	誘殺数	月. 半旬	誘殺数
3. 1	-	6. 1	0	9. 1	33
2	-	2	0	2	41
3	-	3	0	3	27
4	-	4	0	4	23
5	-	5	1	5	30
6	-	6	0	6	21
4. 1	-	7. 1	13	10. 1	19
2	-	2	25	2	14
3	-	3	41	3	6
4	-	4	5	4	4
5	0	5	0	5	4
6	0	6	2	6	0
5. 1	0	8. 1	0	11. 1	0
2	20	2	0	2	0
3	17	3	3	3	0
4	12	4	26	4	0
5	10	5	48	5	0
6	0	6	67	6	-

(2) 果実の被害状況
○一般圃場（出雲市）

調査 月日	調査数	カメムシ		カキクダアサミウマ		コカイガラムシ		ハマキムシ	
		被害 果数	被害 果率(%)	被害 梢数*	被害 梢率(%)	被害 果数	被害 果率(%)	被害 果数	被害 果率(%)
4.23	—	—	—	0	0	0	0	—	—
5.11	—	—	—	1	0.2	0	0	0	0
5.28	500	0	0.0	0	0	0	0	0	0
6.26	500	0	0.0	0	0	2	0.4	2	0.4
7.27	500	0	0.0	0	0	9	1.8	6	1.2
8.28	500	4	0.8	0	0	29	5.8	18	3.6
9.25	500	6	1.2	0	0	37	7.4	41	8.2
10.30	400	21	5.3	0	0	51	12.8	41	10.3

注) * : 各園100新梢、計500新梢調査

(3) 定点における調査
①収穫果実の被害調査

○一般圃場（出雲市）

調査 月日	調査 果数	カメムシ		カキクダアサミウマ		コカイガラムシ		ハマキムシ	
		被害 果数	被害 果率(%)	被害 果数	被害 果率(%)	被害 果数	被害 果率(%)	被害 果数	被害 果率(%)
11.11	540	40	7.4	0	0.0	62	11.5	51	9.4

(Ⅲ) クリ

1. 病害虫に関する調査結果

1) モモノゴマダラノメイガ

(1) 予察灯による成虫の誘殺状況

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

月. 半旬	本 年	平 年	月. 半旬	本 年	平 年
5. 1	0	0.0	8. 1	0	0.2
2	0	0.0	2	0	0.1
3	0	0.0	3	0	0.1
4	0	0.0	4	0	0.2
5	0	0.0	5	1	0.1
6	0	0.0	6	0	0.0
6. 1	0	0.0	9. 1	0	0.1
2	0	0.3	2	0	0.0
3	0	0.4	3	0	0.0
4	0	0.0	4	0	0.0
5	0	0.3	5	0	0.0
6	1	0.1	6	0	0.1
7. 1	1	0.1	10. 1	0	0.0
2	0	0.3	2	0	0.0
3	0	0.0	3	0	0.0
4	0	0.1	4	0	0.0
5	0	0.0	5	0	0.0
6	2	0.5	6	0	0.0
			合 計	5	3.0

2) クスサン

(1) 予察灯による成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺表

○県予察圃場（出雲市芦渡町）

月. 半旬	本年	平年	月. 半旬	本年	平年	月. 半旬	本年	平年
8. 1	0	0.0	9. 1	0	0.1	10. 1	10	12.7
2	0	0.0	2	0	0.7	2	8	9.5
3	0	0.0	3	0	1.2	3	0	2.8
4	0	0.0	4	0	0.6	4	0	0.1
5	0	0.0	5	0	3.0	5	0	0.0
6	0	0.0	6	0	4.6	6	0	0.0
						合計	18	35.3

Ⅲ) 野菜

(I) キャベツ

1. 病害虫に関する調査結果

1) 黒腐病

(1) 発病状況調査

①巡回による調査

○調査場所：出雲市

調査月日	作型	調査圃場数	黒腐病	
			発生圃場率(%)	発病株率(%)
'19. 9. 30	夏秋	10	0	0
	冬	11	0	0
10. 18	夏秋	5	20.0	0.4
	冬	10	0	0

注) 調査株数：50株/圃場

2) 菌核病

(1) 発病状況調査

①巡回による調査

○調査場所：出雲市

調査月日	作型	調査圃場数	菌核病	
			発生圃場率(%)	発病株率(%)
'19. 9. 30	夏秋	10	0	0
	冬	11	0	0
10. 18	夏秋	5	0	0
	冬	10	0	0

注) 調査株数：50株/圃場

3) モンシロチョウ

(1) 発生状況調査

①巡回による調査

ア. 夏秋キャベツ

○松江市東出雲町

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)	10株当り虫数
'18. 8. 27	11	27.3	1.4	0.14
9. 30	11	9.1	1.4	0.14

注) 調査株数：20株/圃場

4) コナガ

(1) 発生状況調査

①巡回による調査

ア. 夏秋キャベツ

○松江市東出雲町

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)	10株当り虫数
'18. 8. 27	13	0	0	0
9. 30	10	0	0	0

注) 調査株数：20株/圃場

5) ヨトウガ

(1) 発生状況調査

①巡回による調査

ア. 夏秋キャベツ

○松江市東出雲町

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	幼虫寄生株率(%)
'19. 8. 27	11	0	0
9. 30	11	0	0

注) 調査株数：20株/圃場

6) ウワバ類

(1) 発生状況調査

①巡回による調査

ア. 夏秋キャベツ

○松江東出雲町

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率 (%)	寄生株率 (%)	10株当り虫数			
				卵	幼虫	蛹	計
'19. 8. 27	11	7	0.02	1.30	0	0	1.30
9. 30	11	10	0	0	0	0	0

注) 調査株数：20株/圃場

7) アブラムシ類

(1) 黄色水盤による有翅虫の有殺状況

①半旬別誘殺数

イチゴのアブラムシ類の項参照。

(2) 発生状況調査

②巡回による調査

ア. 夏秋キャベツ

○松江市東出雲町

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)
'19. 8. 27	11	63.6	5.9
9. 30	11	100	49.1

注) 調査株数：20株/圃場

8) ハスモンヨトウ

(1) フェロモントラップによる雄成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺数

○設置場所：出雲市芦渡町（島根県農業技術センター屋上）

月. 半旬	本年	*平年	月. 半旬	本年	*平年	月. 半旬	本年	*平年	
4. 1	0	0.5	6. 3	113	18.7	8. 5	99	41.5	
2	0	0.1	4	86	26.2	6	89	76.0	
3	0	0.5	5	25	36.8	9. 1	26	93.5	
4	2	1.0	6	6	61.3	2	4	124.7	
5	1	0.1	7. 1	27	75.7	3	33	81.8	
6	0	0.3	2	7	49.2	4	38	76.2	
5. 1	0	0.4	3	3	39.0	5	66	49.3	
2	2	2.1	4	60	33.2	6	26	37.4	
3	1	5.4	5	41	24.5	10. 1	29	63.7	
4	0	5.4	6	23	18.1	2	53	52.9	
5	3	9.2	8. 1	4	19.5	3	43	59.5	
6	3	4.1	2	19	25.0	4	26	49.5	
6. 1	4	8.0	3	10	40.2	5	21	50.3	
2	78	9.2	4	43	38.8	6	17	40.8	
							総計	996	1449.6

注) *: 平成21年～平成30年の平均値

○設置場所：益田市飯田町

月. 半旬	本年	*平年	月. 半旬	本年	*平年	月. 半旬	本年	*平年
5. 1	6	3.4	7. 1	11	70.7	9. 1	10	116.4
2	4	2.8	2	13	48.4	2	26	141.1
3	0	5.3	3	16	27.9	3	20	104.9
4	2	11.0	4	42	37.9	4	126	182.3
5	6	25.5	5	13	34.7	5	190	148.2
6	2	27.0	6	21	40.3	6	42	222.9
6. 1	0	22.0	8. 1	17	22.2	10. 1	220	205.1
2	6	13.8	2	30	40.2	2	175	144.2
3	7	19.7	3	24	66.5	3	186	108.5
4	7	23.7	4	23	58.8	4	89	96.0
5	2	51.6	5	37	96.3	5	140	98.2
6	6	73.2	6	46	170.4	6	160	244.5
注) * : 平成21年～平成30年の平均値						総 計	1725	2513.3

(2) 発生状況調査

①巡回による調査

ア. 夏秋キャベツ

○松江市東出雲町

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)
'19. 8. 27	11	27.3	1.4
9. 30	11	9.1	1.4

注) 調査株数：20株/圃場

9) シロイチモジヨトウ

(1) フェロモントラップによる雄成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺数

○設置場所：出雲市芦渡町（島根県農業技術センター屋上）

月. 半旬	本年	*平年	月. 半旬	本年	*平年	月. 半旬	本年	*平年
4. 1	0	0.0	6. 3	0	0.2	8. 5	0	2.5
2	0	0.0	4	1	0.0	6	23	7.1
3	0	0.0	5	25	0.5	9. 1	3	9.5
4	0	0.0	6	15	0.6	2	1	13.2
5	0	0.0	7. 1	0	0.4	3	0	7.0
6	0	0.0	2	0	0.0	4	1	2.4
5. 1	0	0.0	3	0	0.5	5	0	5.9
2	0	0.0	4	3	1.1	6	1	2.8
3	6	0.6	5	2	1.0	10. 1	0	8.5
4	3	0.3	6	2	0.7	2	0	1.6
5	0	0.8	8. 1	0	0.9	3	0	1.0
6	0	0.5	2	0	4.0	4	0	0.4
6. 1	0	0.0	3	0	2.6	5	0	0.1
2	0	0.0	4	2	1.7	6	0	0.2
注) * : 平成21年～平成30年の平均値						総 計	79	78.6

○設置場所：益田市飯田町

月. 半旬	本年	*平成	月. 半旬	本年	*平成	月. 半旬	本年	*平成	
5. 1	0	0.0	7. 1	10	3.8	9. 1	22	29.8	
2	0	0.0	2	7	1.1	2	1	28.3	
3	1	0.4	3	11	3.0	3	3	31.0	
4	1	0.6	4	7	3.6	4	2	35.2	
5	0	0.9	5	3	1.8	5	4	44.0	
6	0	0.6	6	6	3.1	6	12	19.3	
6. 1	2	0.7	8. 1	17	5.6	10. 1	20	38.3	
2	3	0.3	2	10	4.1	2	17	16.2	
3	8	0.6	3	8	10.4	3	4	16.1	
4	6	0.6	4	35	10.5	4	5	14.9	
5	6	2.0	5	30	9.7	5	2	8.5	
6	3	4.6	6	21	20.0	6	3	4.4	
							総計	290	374

注) *：平成21年～平成30年の平均値

10) オオタバコガ

(1) フェロモントラップによる雄成虫の誘殺状況

①半旬別誘殺数

○設置場所：出雲市芦渡町（島根県農業技術センター屋上）

月. 半旬	本年	*平成	月. 半旬	本年	*平成	月. 半旬	本年	*平成	
4. 1	0	0.0	6. 3	0	0.0	8. 5	0	0.0	
2	0	0.0	4	0	0.0	6	0	0.2	
3	0	0.0	5	0	0.0	9. 1	0	0.0	
4	0	0.0	6	0	0.0	2	0	1.2	
5	1	0.0	7. 1	0	0.0	3	0	0.2	
6	0	0.0	2	0	0.0	4	0	1.0	
5. 1	0	0.0	3	0	0.0	5	1	1.3	
2	0	0.0	4	0	0.0	6	0	0.0	
3	0	0.0	5	0	0.0	10. 1	0	0.2	
4	0	0.0	6	0	0.0	2	0	0.4	
5	0	0.0	8. 1	0	0.1	3	0	1.0	
6	0	0.0	2	0	0.0	4	0	0.2	
6. 1	0	0.1	3	0	0.0	5	0	0.0	
2	0	0.0	4	0	0.0	6	0	0.6	
							総計	2	6.6

注) *：平成21年～平成30年の平均値

○設置場所：益田市飯田町

月. 半旬	本年	*平成	月. 半旬	本年	*平成	月. 半旬	本年	*平成	
5. 1	1	0.0	7. 1	0	0.0	9. 1	0	0.0	
2	0	0.0	2	0	0.1	2	0	0.1	
3	0	0.2	3	0	0.1	3	1	0.1	
4	0	0.4	4	0	0.2	4	0	0.0	
5	0	0.0	5	0	0.0	5	0	0.7	
6	1	0.1	6	0	0.4	6	0	0.5	
6. 1	0	0.0	8. 1	0	0.0	10. 1	0	2.2	
2	0	0.2	2	0	0.1	2	1	0.8	
3	1	0.0	3	0	0.1	3	1	0.6	
4	0	0.0	4	1	0.0	4	0	0.7	
5	4	0.1	5	0	0.7	5	0	0.5	
6	2	0.1	6	0	0.5	6	0	1.2	
							総計	13	10.1

注) *：平成21年～平成30年の平均値

11) キスジノミハムシ

(1) 発生状況調査

①巡回による調査

ア. 夏秋キャベツ

○松江市東出雲町

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)	10株当り成虫数
'19.8.27	11	63.6	11.8	2.0
9.30	11	63.6	8.6	1.1

注) 調査株数：20株/圃場

(II) タマネギ

1. 病害虫に関する調査結果

1) ペト病

(1) 発生状況調査

①巡回による調査

調査月日	調査場所	調査圃場数	発生圃場率(%)	調査株数	発病株率(%)
'19. 3. 25	出雲市	30	30	836,080	0.036
4. 23	出雲市	30	16.7	9,000	0.6
5. 22	出雲市	23	56.5	6,900	9.4

2) 白色疫病、ボトリチス属菌による葉枯症、腐敗病・軟腐病

(1) 発生状況調査

①巡回による調査

調査 月日	調査 場所	調査 圃場数	白色疫病		ボトリチス属菌による葉枯症		腐敗病・軟腐病	
			発生 圃場率(%)	発病 株率(%)	発生 圃場率(%)	発病 株率(%)	発生 圃場率(%)	発病 株率(%)
'19. 3. 25	出雲市	30	20	0.9	3.3	0.1	43.3	1.3
4. 23	出雲市	30	0	0	6.7	0.2	73.3	7.3
5. 22	出雲市	23	0	0	8.7	0.1	39.1	2.0

注) 調査株数：300株/圃場

(Ⅲ) イチゴ

1. 病害虫に関する調査結果

1) 灰色かび病

(1) 発病状況調査

①巡回による調査

調査年月日	調査場所	調査圃場数	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	調査葉数	発病葉率 (%)	調査花梗数	発病花梗率 (%)	調査果実数	発病果実率 (%)
'19. 3. 26	安来市	10	50	8.4	3075	1.0	2595	0.1	2255	0.3
4. 22	安来市	9	55.6	6.8	3725	0.8	2525	0.3	1450	0.3
10. 2	安来市	10	0	0	1340	0				
11. 14	安来市	10	10	0.4	1855	0.0	2270	0	1435	0
12. 11	安来市	8	37.5	3.5	1470	0.1	1675	0	1525	0.1
'20. 1. 15	安来市	10	70	12	2670	0.4	2880	0.1	2280	2.1
2. 26	安来市	10	60	10.8	3440	1.3	3465	0	2415	0.1

注) 調査株数: 25株/圃場

2) うどんこ病

(1) 発病状況調査

①巡回による調査

調査年月日	調査場所	調査圃場数	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	調査葉数	発病葉率 (%)	調査花梗数	発病花梗率 (%)	調査果実数	発病果実率 (%)
'19. 3. 26	安来市	10	10	0.4	3075	0	2595	0	2255	0.0
4. 22	安来市	9	22.2	1.3	3725	0.1	2525	0.0	1450	0.1
6. 7	安来市	6	66.7	2.3	620	2.4				
7. 4	安来市	7	71.4	22.9	1520	11.9				
8. 3	安来市	7	0	0.0	1250	0				
8. 29	安来市	7	57.1	2.6	1130	1.5				
10. 2	安来市	10	0	0	1340	0				
11. 14	安来市	10	40	7.2	1855	0.2	2270	1.5	1435	1.5
12. 11	安来市	8	25	4.5	1470	0	1675	0	1525	0.6
'20. 1. 15	安来市	10	20	1.3	2670	0	2880	0	2280	0.7
2. 26	安来市	10	0	0	3440	0	3465	0	2415	0

注) 調査株数: 25株/圃場

3) 炭疽病

(1) 発病状況調査

①巡回による調査

調査年月日	調査場所	調査圃場数	発生圃場率 (%)	調査株数	発病株率 (%)
'19. 6. 7	安来市	6	0	3000	0
7. 4	安来市	7	0	3500	0
8. 3	安来市	7	28.6	3500	0.3
8. 29	安来市	7	28.6	3500	0.5
10. 2	安来市	10	20	5000	0.2

注) 調査株数: 500株/圃場

4) アブラムシ類

(1) 黄色水盤による有翅虫の誘殺状況

① 半月別誘殺数

月. 半月	本年	*平成	月. 半月	本年	*平成	月. 半月	本年	*平成
4. 1	4	1.5	7. 1	13	61.9	10. 1	9	45.1
2	11	1.9	2	1	25.0	2	0	30.7
3	17	2.6	3	1	45.0	3	0	24.6
4	43	6.0	4	8	19.2	4	0	11.7
5	45	7.1	5	2	9.3	5	6	25.8
6	86	18.0	6	2	11.8	6	0	52.4
5. 1	37	29.9	8. 1	2	15.4	総計	864	1343.4
2	34	27.8	2	1	14.5			
3	43	29.8	3	0	12.6			
4	38	38.6	4	1	16.4			
5	43	42.7	5	0	18.8			
6	71	44.4	6	2	20.1			
6. 1	73	50.3	9. 1	4	20.1			
2	87	56.9	2	5	23.1			
3	103	79.3	3	5	26.0			
4	21	102.0	4	10	40.9			
5	12	56.9	5	13	37.2			
6	2	79.3	6	9	37.0			

注) 1 黄色水盤：径20cm、深さ18cm、ライシメータ上に設置。

2 調査：平成31年4月から10月に1～6日おきに飛び込み有翅虫数を調査した。

3 *：平成21年から平成30年までの平均値。

(2) 発生状況調査

① 巡回による調査

○安来市

調査年月日	調査 圃場数	ワタアブラムシ		チュウリップヒゲナガアブラムシ	
		発生圃場率(%)	寄生株率(%)	発生圃場率(%)	寄生株率(%)
'19. 2. 6	9	22.2	1.1	0	0
3. 20	7	28.5	1.4	0	0
4. 22	10	22.2	3.3	0	0

注) 調査株数：20株(1株3複葉)/圃場

5) ハダニ類

(1) 発生状況調査

① 巡回による調査

○安来市

調査年月日	調査 圃場数	カンザワハダニ		ナミハダニ	
		発生圃場率(%)	寄生葉率(%)	発生圃場率(%)	寄生株率(%)
'19. 2. 6	9	0.0	0.0	77.8	35.0
3. 20	7	0.0	0.0	77.8	65.0
4. 22	10	0.0	0.0	88.9	68.1

注) 調査株数：20株(1株3複葉)/圃場

6) アザミウマ類

(1) 発生状況調査

アブラムシ類と同時に調査を行った。

①巡回による調査

○安来市

調査年月日	調査 圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)
'19.2.6	9	11.1	0.6
3.20	7	42.9	2.1
4.22	10	60.0	21.5

注) 調査株数：20株(1株3複葉)/圃場

7) コナジラミ類

(1) 発生状況調査

①巡回による調査

○安来市

調査年月日	調査 圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)
'19.2.6	9	44.4	5.6
3.20	7	11.1	10.0
4.22	10	0	0

注) 調査株数：20株(1株3複葉)/圃場

IV) 花卉

(I) キク

1. 病害虫に関する調査結果

1) 白さび病

(1) 発病状況調査

①巡回による調査

○調査場所：出雲市

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	発病葉率(%)
'19. 5. 27	5	0	0
7. 8	5	0	0
10. 7	4	0	0
11. 5	4	25.0	0.9
12. 10	3	0	0

2) アザミウマ類

(1) 発生状況調査

①巡回による調査

○調査場所：出雲市

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)
'19. 5. 27	5	100	7.2
7. 8	5	60.0	3.6
8. 27	5	50.0	2.5
10. 4	4	0	0
11. 5	4	25.0	1.0
12. 10	3	0	0

3) アブラムシ類

(1) 発生状況調査

①巡回による調査

○調査場所：出雲市

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率(%)	寄生株率(%)
'19. 5. 27	5	80.0	1.3
7. 8	5	0	0
8. 27	4	20.0	0
10. 4	4	0	0
11. 5	4	0	0
12. 10	3	0	0

3) ハダニ類

(1) 発生状況調査

①巡回による調査

○調査場所：出雲市

調査年月日	調査圃場数	発生圃場率 (%)	寄生株率 (%)
'19. 5. 27	5	40.0	2.4
7. 8	5	80.0	28.8
8. 27	4	50.0	33.0
10. 4	4	50.0	26.7
11. 5	4	75.0	27.0
12. 10	3	33.3	18.7

V) 病害虫発生程度別面積 2019 (R.1)

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					防除面積 (ha)		備考
			甚	多	中	少	計	実	延	
普通期水稻	17,300	苗立枯病	0	0	5	35	40	13,300	13,300	
		苗いもち	0	0	0	20	20	0	0	
		葉いもち	0	4	75	725	804	12,000	13,000	
		穂いもち	0	4	15	480	499	8,500	10,500	
		紋枯病	7	100	750	5,850	6,707	6,000	7,500	
		白葉枯病	0	0	5	35	40	0	0	
		ばか苗病	0	0	1	14	15	13,200	13,200	
		もみ枯細菌病	0	5	200	1,300	1,505	100	100	
		もみ枯細菌病 (種子消毒)					-	-13,200	-13,200	
		ごま葉枯病	5	30	300	4,600	4,935	-5,000	-5,000	
		黄化萎縮病	0	0	0	10	10	0	0	
		縞葉枯病	0	0	5	45	50	0	0	
		萎縮病	0	0	0	0	-	0	0	
		稲こうじ病	0	0	5	90	95	500	500	
		ニカメイガI	0	0	0	2,500	2,500	-11,680	-11,680	
		ニカメイガII	0	0	0	2,000	2,000	-10,000	-10,000	
		セジロウンカ	0	0	0	7,875	7,875	-15,000	-15,000	
		トビイロウンカ	0	10	100	8,750	8,860	15,000	15,000	
		ヒメトビウンカ	0	0	0	15,225	15,225	-16,680	-16,680	
		ツマグロヨコバイ	0	0	0	7,440	7,440	-15,000	-15,000	
		イネミギワバエ	0	0	0	1,000	1,000	-11,680	-11,680	
		イネドロオウムシ	0	0	0	60	60	-11,680	-11,680	
		イネゾウムシ	0	0	0	600	600	-11,680	-11,680	
		イネクロカメムシ	0	0	10	140	150	130	130	
		斑点米カメムシ類	0	0	0	12,250	12,250	10,100	10,100	
		イチモンジセセリ	0	0	0	1,000	1,000	0	0	
		フタオビコヤガ	0	0	0	1,000	1,000	0	0	
		イネヨトウ	0	0	0	50	50	0	0	
		アワヨトウ	0	0	0	50	50	0	0	
		コブノメイガ	0	0	0	4,375	4,375	0	0	
イネミズゾウムシ	0	0	0	8,700	8,700	11,680	11,680			
麦	617	さび病類	0	1	0	15	16	0	0	
		うどんこ病	0	0	0	0	-	0	0	
		赤かび病	0	0	0	2	2	550	1,000	
		黒節病	0	3	17	130	150	0	0	

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					防除面積 (ha)		備考
			甚	多	中	少	計	実	延	
大豆	756	アブラムシ類	0	0	18	70	88	300	350	
		ハスモンヨトウ	0	3	57	250	310	400	600	
		吸実性カメムシ類	0	2	120	250	372	400	500	
なし	74	黒斑病	1	2	6	17	26	45	585	
		黒星病	0	0	4	14	18	74	518	
		ナシヒメシンクイ	0	0	4	10	14	74	148	
		ナシオオシンクイガ	0	0	0	0	0	0	0	
		モモシンクイガ	0	0	0	10	10	74	148	
		ハマキムシ類	0	0	10	40	50	74	148	
		ハダニ類	0	10	19	45	74	74	222	
		カメムシ類	0	0	10	20	30	74	222	
		カイガラムシ類	0	0	0	10	10	74	74	
		アブラムシ類	0	0	0	15	15	74	74	
		ニセナシサビダニ	5	10	15	25	55	74	222	
		かき	308	炭そ病	0	0	4	15	19	250
うどんこ病	5			8	13	47	73	250	750	
落葉病類	1			5	13	40	59	250	750	
カキノヘタムシガ(カキミガ)	0			0	10	60	70	250	500	
カイガラムシ類	5			20	55	110	190	250	750	
カメムシ類	0			10	60	100	170	250	1,000	
ハマキムシ類	0			10	30	30	70	250	500	
チャノキイロアザミウマ	0			0	30	45	75	250	500	
カキクダアザミウマ	0			0	0	50	50	250	500	
夏秋キャベツ	50	黒腐病	0	0	0	8	8	25	50	
		菌核病	0	0	0	8	8	25	50	
		アブラムシ類	0	1	2	12	15	30	50	
		モンシロチョウ	0	0	2	7	9	50	200	
		コナガ	0	0	1	15	16	50	200	
		ヨトウガ	0	1	2	7	10	50	200	
		オオタバコガ	0	0	4	10	14	50	200	
		ハスモンヨトウ	0	1	10	15	26	50	200	
		シロイチモジヨトウ	0	0	1	10	11	50	200	
冬キャベツ	117	黒腐病	0	0	3	15	18	40	60	
		菌核病	0	0	3	15	18	45	90	
		アブラムシ類	0	1	2	10	13	30	50	
		モンシロチョウ	0	0	5	20	25	120	240	
		コナガ	0	0	3	15	18	120	240	
		ヨトウガ	0	1	15	20	36	120	240	
		オオタバコガ	0	0	4	10	14	120	240	
		ハスモンヨトウ	0	2	15	30	47	55	220	

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)					防除面積 (ha)		備考
			甚	多	中	少	計	実	延	
タマネギ	108	白色疫病	0	0	7	20	27	54	216	
		べと病	0	3	10	37	50	107	642	
		ボトリチス属菌による葉枯れ	0	0	0	20	20			
イチゴ	16	灰色かび病	0	0	1	5	6	16	60	
		うどんこ病	0	0	0	5	5	16	80	
		炭疽病	0	0	1	5	6	16	60	
		アブラムシ類	0	1	1	13	15	19	57	
		アザミウマ類	0	0	2	7	9	8	24	
		ハダニ類	1	3	8	10	22	16	96	
きく	7	白さび病	0	0	0	2	2	8	40	
		アザミウマ類	0	0	0	5	5	8	56	
		アブラムシ類	0	0	1	6	7	8	56	

VI) 病害虫発生経過の概要及び発生原因の解析(2019・R1年)

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
イネ	いもち病	葉いもち 遅い 穂いもち 平年並	葉いもち 少ない 穂いもち 少ない	葉いもちの初発生は6月25日と遅かった。病勢進展は極めて緩慢で、7月下旬の巡回調査(70ほ場)における発生ほ場率は、0% (平年11.3%)、発病株率が0% (平年4.5%)と平年に比べて低く、全般の発生量は少なかった。穂いもちは、平年並みの8月上旬に確認されたが、8月下旬の巡回調査(70ほ場)における発生ほ場率は2.9%、発病率は0.3%で、全般の発生量は平年に比べて少なかった。	6月上旬の置き苗の調査では発生を認めず、本田における葉いもちの伝染源が少なかったこと、育苗箱施薬により葉いもちの発生が抑制されたこと、BLASTAM(アメダス観測15地点)による6月の感染好適日の出現回数は14回(平年26.3回)と少なかったことにより初期の発生が抑制されたものと考えられる。このため7月に入ってから感染好適日が頻繁に出現し第5半旬までに56回あったが全般の発生量は少なかったものと考えられる。また、出穂期前の第6半旬には感染好適日の出現がほとんどなく、8月の出現回数も12回(平年15.2回)とやや少なかったことから穂いもちの感染も抑制されたものと考えられる。	常習発生地では育苗箱施薬が行われた。また、発生に応じ薬剤散布が行われた。
	紋枯病	平年並	やや多い	初発生は6月24日に認められた。初期の病勢進展は緩慢で、7月下旬の巡回調査(70ほ場)では、発生ほ場率が11.4% (平年16.1%)、発病株率が0.7% (平年2.3%)と平年に比べてやや低かった。8月に入ると上位進展が活発化し止葉まで病斑形成が及んだ発病程度の高いほ場が確認され、全般の発生量は平年に比べてやや多かった。	初期の発生が少なかったのは、前年の発生がやや少なく伝染源量がやや少なかったことに起因すると推察される。出穂期以降に病斑の上位進展が活発化したのは、8月上旬以降気温が高く推移したこと、風害等により倒伏被害を生じたことによるものと考えられる。	育苗箱施薬や発生に応じて出穂期までに薬剤散布が行われた。
	縞葉枯病	平年並	多い	初発生は6月11日に認められた。県内の一部地域で発病程度の高いほ場が見られた。また、再生稲における発生ほ場率(121ほ場)は12.4%、発病株率が2.3%と平年に比べて高く、立毛時の被害は僅少なながら感染株の発生は広範に及んでいることが確認された。本病の広域発生は2009年以来10年ぶりである。	ヒメトビウカの保毒虫率は越冬世代幼虫、第1世代成虫とも極めて低かったが、ヒメトビウカの発生量が平年に比べて多かったため本病の発生を助長したものと考えられる。	過去に縞葉枯病が多発生した地域では、箱施薬剤等による媒介虫のヒメトビウカに対する防除が行われた。
稲こうじ病	平年並	やや少ない	県内で例年発生が多いきぬむすめ栽培ほ場における調査(115ほ場)では、9月上旬の発生ほ場率が9.7%、発病株率が0.3%とやや低かった。	きぬむすめの幼穂形成期から穂ばらみ期にあたる7月中旬～8月上旬の降水量が平年に比べて少なく、気温が高かったため発生が抑制されたものと考えられる。	常習発生地では発生に応じ薬剤散布が行われた。	
ばか苗病	平年並	少ない	巡回調査(70ほ場)では発生は認められなかった。	種子更新及び種子消毒の実施により、発生が抑制されたものと考えられる。	種子消毒が行われた。	
もみ枯細菌病	平年並	多い	9月上旬のきぬむすめ栽培ほ場における調査(115ほ場)では発生ほ場率が28.7%、発病株率が3.2%となり、例年発生が認められないことから、全般の発生量は多いと結論づけた。	きぬむすめの出穂期前後にあたる8月上旬～下旬の気温が平年に比べて高く推移したため、発生が助長されたと考えられる。	種子消毒及び穂いもちとの同時防除が行われた。	
イネミズゾウムシ	やや早い	平年並	前年の新成虫発生量はやや多く、その後の発生量は平年並みであった。	5月の気温が高い影響で発生時期は早かったものの、大部分のほ場で育苗箱施薬が行われておりその後は平年並みに推移したと考えられる。	大部分のほ場では育苗箱施薬が行われた。	
コブノメイガ	平年並	平年並	全般の発生量は平年並みであった。	全般の発生量は平年並みであり、大部分のほ場では育苗箱施薬が行われており、平年並みとなったと考えられる。	大部分のほ場では育苗箱施薬が行われた。	
セジロウカ	早い	平年並	現地ほ場の成虫の発生は5月第5半旬と平年に比べて早く、発生ほ場率が8.51% (平年0.22%) 50株当たり虫数が0.17頭(平年0.01頭)と平年に比べてやや多かった。その後、7月下旬において発生ほ場率が45.7% (平年68.1%)、50株当たり虫数は15.4頭(平年69.6頭)となり、全般の発生量は平年並みだった。なお、予察灯での初飛来は8月21日に確認され、その後の飛来量も平年に比べてやや少なく経過した。	発生時期は平年に比べて早く、発生虫数もやや多かったものの、その後の飛来量が少なく経過した。また8月の降雨量が多く気温が高温となったため抑制的に働き、全般の発生量は平年並みとなったと考えられる。	大部分のほ場では育苗箱施薬が行われた。また、出穂時に穂いもち・ウカ類の同時防除が行われた。	
ツマグロヨコバイ	平年並	平年並	6月下旬の調査では発生ほ場率が30.4% (平年34.9%)、50株当たり虫数が2.2頭(平年2.5頭)と平年並みであった。その後も、発生量は平年並みであった。なお、予察灯での初飛来は平年に比べてやや早く、その後の飛来量は平年に比べてやや少なく経過した。	6月、7月中旬と虫数は平年並みに推移したものの、8月の降水量が多く気温も高温となったため抑制的に働き平年並みとなったと考えられる。	大部分のほ場では育苗箱施薬が行われた。	
トビイロウンカ	やや早い	多い	ほ場での成幼虫の発生は7月中旬に発生ほ場率が13.0% (平年1.9%)、50株当たり虫数が3.0頭(平年0.04頭)と平年に比べて多かった。8月下旬に発生ほ場率が56.1% (平年29.1%)、50株当たり虫数が16.5頭(平年2.6頭)と平年に比べて多く、全般の発生量は平年に比べて多かった。予察灯での初飛来は8月21日に確認され、その後の飛来数は平年に比べて多く推移した。本種による被害が9月上旬から県西部を中心に発生した。	発生時期が平年に比べてやや早く、発生虫数も平年に比べ多かった。その後の飛来数も平年に比べ多く、9月以降の降雨量が少なく気温も高いことが助長的に働き、全般の発生量は平年と比べ多くなったと考えられる。	大部分のほ場では育苗箱施薬が行われている。また、出穂時に穂いもち・ウカ類の同時防除が、収穫時期の遅いほ場では発生に応じて追加防除が行われた。9月5日付けで病害虫発生予察情報注意報第1号を発表し注意を促した。	

ニカメイガ	第1世代 やや早い 第2世代 平年並	第1世代 平年並 第2世代 平年並	予察灯での初誘殺は4月第5半旬と平年に比べてやや早く、第1世代全般の誘殺数は平年並み、6月下旬のほ場での被害株率は平年に比べてやや少なかった。予察灯での第2世代全般の誘殺数は平年に比べて少なく、7月下旬のほ場での被害株率は平年並みであった。	4月下旬から5月上旬の気温が高く発生がやや早くなったものの、大部分のほ場で育苗箱施薬が行われており、平年並みに推移した。	大部分のほ場では育苗箱施薬が行われた。	
斑点米カメムシ類	平年並	やや多い	6月下旬のほ場周辺雑草地でのすくい取り調査では、斑点米カメムシ類合計で発生量は7.1頭/20回振り(平年8.2頭)と平年並みであった。7月上旬では、ほ場率は76.5%(平年81.4%)、発生量は13.2頭/20回振り(平年6.7頭)と平年に比べてやや多かった。7月下旬では、ほ場率37.5%(平年57.3%)、発生量は1.48頭/20回振り(2.78頭)と平年に比べてやや少なかった。8月下旬の調査では、ほ場率は70.6%(平年42.2%)、発生量は3.2頭/20回振り(平年2.2頭)と平年に比べてやや多かった。全般の発生量は平年に比べてやや多く推移した。主な発生種はアカスジカスミカメ、クモヘリカメムシであった。予察灯での誘殺量は平年と比べてやや少ないものの、8月第5半旬から9月の誘殺数は平年に比べてやや多かった。	6月下旬のほ場周辺雑草地での発生量は平年並みに推移し、7月の調査では平年に比べてやや少なかったものの、その後の予察灯へのアカスジカスミカメの誘殺数が平年に比べやや多いことから、全般の発生量は平年に比べてやや多くなったと考えられる。	発生に応じて穂揃い・乳熟期～糊熟期に薬剤散布が行われた。	
ヒメトビウナカ	平年並	多い	4月中旬耕起前水田内の越冬世代成幼虫すくい取り調査では発生ほ場率40.9%(平年27.6%)、捕獲数が0.9頭/20回振り(平年1.1頭)と平年並みであった。6月下旬の調査では発生ほ場率43.5%(平年27.5%)、50株当たり虫数4.2頭(平年0.8頭)と平年に比べて多く推移した。	ほ場内への飛び込みが多く平年に比べて多く推移したものと考えられる。	大部分のほ場では育苗箱施薬が行われた。	
フタオビコヤガ	平年並	平年並	全般の発生量は平年並みであった。	発生量は平年並みであり、大部分のほ場で育苗箱施薬が行われており平年並みに推移したと考えられる	大部分のほ場では育苗箱施薬が行われた。	
ムギ	さび病	平年並	多い	コムギでは黄さび病が31年ぶりに発生し発生量は多く、赤さび病の発生量は平年並みであった。オオムギの小ささび病の発生は確認できなかった。全般の発生量は多かった。	黄さび病は突発的な発生であり原因は不明である。赤さび病、小ささび病は近年発生が平年並み～少ないことから、伝染源量が少ないものと考えられる。	本病を対象とした薬剤散布は特に行われなかった。
	赤さび病	やや早い	コムギ少ない オオムギ少ない	オオムギ、コムギとも全般の発生量は平年に比べて少なかった。	オオムギ、コムギとも出穂期前後に感染に好適な気象条件が出現しなかったため発生が少なかったものと考えられる。	ムギの種類に応じて出穂期以降、薬剤散布が実施された。
	うどんこ病	—	少ない	オオムギ、コムギとも巡回調査では発生を確認できなかった。	近年発生が少ないことから、伝染源量が少ないものと考えられる。	本病を対象とした薬剤散布は特に行われなかった。
ダイズ	ハスモンヨトウ	平年並	やや少ない	フェロモントラップによる雄成虫の累積雄殺数は9月下旬までやや少なく、ほ場での卵塊、幼虫の発生も少なかった。1a当りの白変葉の数は平年よりやや少なかった。全般の発生量は平年よりやや少なかった。	成虫の飛来が少なかったため、発生量がやや少なかったと考えられる。	発生に応じて薬剤散布が行われた。
	アブラムシ類	平年並	平年並	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	防除効果の高い薬剤の散布により発生量が平年並みになったと考えられる。	発生に応じて薬剤散布が行われた。
	吸実性カメムシ類	平年並	やや少ない	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年に比べてやや少なかった。	成虫の飛来が少なかったため、発生量がやや少なくなったものと考えられる。	発生に応じて薬剤散布が行われた。
ナシ	黒斑病	遅い	やや少ない	一部多発園もみられたが、全般の発生量は平年に比べてやや少なかった。	5～7月の降水量が少なかったため、感染が抑制されたものと考えられる。	袋かけ時期を中心に薬剤散布がよく行われた。以後、収穫期まで薬剤散布が行われた。
	黒星病	遅い	やや少ない	発生量は6月下旬まで平年に比べて少なく推移し、7月以降は病勢の進展がやや活発化したが、全般の発生量は平年に比べてやや少なかった。	5～7月の降水量が少なかったため、感染が抑制されたものと考えられる。	開花期から袋かけ期を中心に薬剤防除が行われた。
	ナシヒメシロクイ	平年並	平年並	フェロモントラップでの越冬世代、第1世代雄成虫の誘殺時期は平年並みであった。誘殺数はすべての世代で平年並みとなり、果実の被害は全般には平年並みであった。	越冬世代成虫の発生時期は平年並みとなった。越冬量は平年並みであった。5月以降では、6月中下旬を除き気温は高く推移したが、定期的に薬剤防除が行われ発生量は平年並みとなった。また、本県ではほとんどが有袋栽培のため果実の被害は平年並みとなったと考えられる。	他害虫との同時防除が行われた。

モモシクイガ	平年並	平年並	フェロモントラップでの越冬世代、第1世代雄成虫の誘殺時期は平年並みであった。また、誘殺数、果実被害とも全般に平年並みであった。	前年の発生は平年並みで、越冬世代成虫の発生量も平年並みと考えられる。春先から気温が高く推移したが、発生時期は平年並みとなった。また、本県ではほとんどが有袋栽培のため果実の被害は平年並みとなったと考えられる。	ナシヒメシクイ、ハマキムシ類との同時防除が行われた。	
ハマキムシ類	平年並	平年並	フェロモントラップでのチャハマキ、チャノコカクモンハマキ越冬世代の発生時期は、平年並みであった。チャハマキ、チャノコカクモンハマキの発生量は平年並み、幼虫による被害も平年並みとなった。	3月は気温が高かったものの、越冬世代の発生時期は平年並みとなった。その後、5月以降、6月中下旬を除き気温は高く推移したが発生量は平年並みであった。6月以降定期的に薬剤防除が行われ、全体の発生量は平年並みとなったと考えられる。	ナシヒメシクイ、モモシクイガとの同時防除が行われた。	
ハダニ類	平年並	平年並	4月下旬は花叢への寄生率は平年並みで、その後、発生量は緩やかに増加したが、6月、7月の発生量はやや少なかった。8月に発生量はやや増加し、その後発生は平年並みとなった。全般の発生量は平年並みとなった。	カンザワハダニの越冬量はやや少なく、4月下旬にクワオオハダニの花叢への寄生がみられたが、生育初期の発生量は平年並みであった。その後、6月中下旬は気温が低く、降水量も多かったことから発生量はやや少なくなかった。7月から8月にかけて降雨が少なかったため、増加傾向を示し平年並みとなった。発生に応じて殺ダニ剤が散布され被害も平年並みとなった。このため、全体の発生量は平年並みに推移したと考えられる。	5月下旬～6月、7月上旬、8月上旬を中心に薬剤散布が行われた。	
クワコナカイガラムシ	—	やや少ない	全般の発生量は平年に比べてやや少なかった。	—	防虫果袋が使用された。	
アブラムシ類	平年並	やや少ない	越冬成虫の発生時期は平年並みとなった。5月上旬の新梢への寄生程度はやや低くなった。全般の発生量はやや少なくなかった。	4月から気温が高く推移したが、発生時期は平年並みとなった。その後も6月中旬を除き、気温は高く推移したが、定期的に薬剤による防除が行われ、発生量はやや少なくなかった。	5～6月に薬剤散布が行われた。	
カメムシ類	平年並	平年並	フェロモントラップでは4月26日から、予察灯では5月16日から誘殺された。その後、8月に入り誘殺数が増加し、9月下旬まで発生が続いた。全体の発生量は平年並みであった。また、被害も平年並みとなった。	前年はヒノキ毬果がやや多くカメムシの越冬量はやや多いと考えられた。本年はヒノキの花粉飛散量から毬果はやや多いと推定されたが、7月下旬～8月にかけて台風などの影響により、ヒノキ毬果の劣化が進んだためほ場への飛来時期は平年並みとなった。9月も気温が高くほ場への飛来が続いたが、有袋栽培のため果実被害は平年並みとなった。	8月上旬を中心に薬剤散布が行われた。	
カキ	炭疽病	平年並	平年並	全般の発生量は平年並みであった。	5～7月の降水量が少なかったこと、また本病を主体とした防除体系が行われたため、発生量が平年並みとなったと考えられる。	梅雨時期と8月下旬～9月を中心に薬剤散布が行われた。
	うどんこ病	やや遅い	やや少ない	全般の発生量は平年に比べてやや少なかった。	8月下旬以降の防除が徹底されたため、発生量が平年と比べてやや少なくなかったと考えられる。	8月下旬～9月を中心に薬剤散布が行われた。
	落葉病類 (円星落葉病)	平年並	平年並	一部多発ほ場もみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	近年、発生量が少ない傾向が続いているため、越冬菌量が少なかったことと、薬剤防除が徹底されたためと考えられる。	5～7月に薬剤散布が行われた。
	カキミガ	平年並	平年並	果実での発生量、被害量とも平年並みであった。	防除効果の高い薬剤が適期に散布されたためと考えられる。	各世代発生期に薬剤散布が行われた。
	ハマキムシ類	平年並	平年並	フェロモントラップでのチャハマキ、チャノコカクモンハマキ越冬世代の発生時期は、平年並みであった。ほ場での発生量はチャハマキ、チャノコカクモンハマキとも平年並み、幼虫による被害量も平年並みであった。	越冬世代の発生時期は平年並みとなった。その後、5月以降、6月中下旬を除き気温は高く推移したが発生量は平年並みであった。6月以降基幹防除が行われ、全体の発生量は平年並みとなったと考えられる。	他害虫との同時防除が行われた。
	カメムシ類	平年並	平年並	フェロモントラップでは4月26日から、予察灯では5月16日から誘殺された。その後、8月に入り誘殺数が増加し、9月下旬まで発生が続いた。全体の発生量は平年並みであった。被害量は平年並みとなった。	前年はヒノキ毬果がやや多くカメムシの越冬量はやや多いと考えられた。本年はヒノキの花粉飛散量から毬果はやや多いと推定されたが、7月下旬～8月にかけて台風などの影響により、ヒノキ毬果の劣化が進んだためほ場への飛来時期は平年並みとなった。また、飛来量はやや多くなった。9月下旬まで気温が高く推移したため、活動が活発化し収穫期間近に一部地域で被害がみられた。発生に応じた薬剤防除を行ったため被害量は平年並みとなったと考えられた。	各世代発生期に薬剤散布が行われた。
	カイガラムシ	平年並	平年並	フジコナカイガラムシの性フェロモントラップでは越冬世代が5月上旬から誘殺された。その後、第1世代は7月中下旬、第2世代は8月下旬から誘殺された。ほ場での発生は平年並みであった。	越冬世代の発生時期は平年並みとなった。その後第1世代発生期の6月中下旬の気温が低く推移したため、発生時期はばらつきが見られた。各世代の幼虫発生時期に合わせ防除を行ったため被害も平年並みとなった。	各世代発生期に薬剤散布が行われた。

	カキクダアザミウマ	平年並	平年並	5月12日に被害捲葉の発生を認めた。発生量は平年並みであった。第1世代成虫は6月第5半旬から粘着トラップに誘殺され、誘殺数は平年並みであった。果実被害は7月中旬からみられたが、被害量は平年並みであった。	越冬成虫の飛来量が平年並みであったこと、成虫飛来時期の薬剤散布と被害捲葉の除去などの防除対策により、果実被害の発生量は平年並みとなったと考えられる。	越冬成虫飛来期の薬剤散布と捲葉の切除が行われた。
	アザミウマ類 (チャノキイロアザミウマ)	平年並	平年並	チャノキイロアザミウマが主要種となった。5月下旬に粘着トラップに誘殺され、誘殺数は平年並みであった。被害は平年並みであった。	全体の発生量は平年並みであった。7月の降水量が少なかったが、発生はそれほど多くなかった。摘果と防除により被害は平年並みとなったと考えられる。	6月上旬に薬剤散布が行われた。
夏秋キャベツ	黒腐病	平年並	やや少ない	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年に比べてやや少なかった。	遅い作型での結球期にあたる8月中旬～9月上旬が台風の通過によって降水量が平年に比べて多かったが、食葉性害虫等による葉の傷害は少なく、感染機会は総じて限定的であったものと推察された。また、近年の傾向として発生量がやや少ないことから、伝染源量の減少も発生の抑制に繋がっているものと考えられる。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	菌核病	平年並	やや少ない	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年に比べてやや少なかった。	9月の降水量は台風の通過によって平年に比べて多かったが、感染に好適な降水量ではなく、気温も平年に比べて高かったため、感染機会は総じて限定的であったものと推察された。近年の傾向として発生量がやや少ないことから、伝染源量が減少し発生の抑制に繋がっているものと考えられる。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	アブラムシ類	—	平年並	黄色水盤による誘殺数は平年並みであった。県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	防除効果の高い薬剤の散布により発生量が平年並みになったと考えられる。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	ヨトウガ	—	平年並	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	8月、9月の気温は平年よりも高く推移していたが、降水量も8月下旬から9月上旬まで平年よりも高く推移しており飛来が平年並みになったと考えられた。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	シロイチモジヨトウ	—	平年並	フェロモントラップによる雄成虫の累積誘殺数は平年並みであった。ほ場での発生は認められなかった。	ほ場への飛来は確認されなかった。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	オオタバコガ	—	平年並	フェロモントラップによる雄成虫の累積誘殺数は平年並みであった。ほ場での発生は認められなかった。	ほ場への飛来は確認されなかった。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	コナガ	—	少ない	幼虫の発生量は全般に平年に比べて少なかった。	成虫の飛来が少なかったため、発生量が少なかったと考えられた。	定植時の粒剤施用または灌注（土壌またはセルトレイ）と、その後は他のチョウ目害虫との同時防除が行われた。
	ハスモンヨトウ	—	平年並	フェロモントラップによる雄成虫の累積誘殺数は9月下旬までやや少なかったが、ほ場での卵塊、幼虫の発生は平年並みであった。	8月、9月の気温は平年よりも高く推移していた。降水量も8月下旬から9月上旬まで平年よりも多く推移しており飛来が平年並みになったと考えられた。	定植時の粒剤施用または灌注（土壌またはセルトレイ）による防除が行われた。
冬キャベツ	黒腐病	平年並	平年並	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	—	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	菌核病	平年並	平年並	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	—	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	アブラムシ類	—	平年並	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	防除効果の高い薬剤の散布により発生量が平年並みになったと考えられる。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	ヨトウガ	—	平年並	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	10月の気温は平年よりも高く推移していたが、降水量も平年よりも多く推移していたため、発生量が平年並みになったと考えられる。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	シロイチモジヨトウ	—	平年並	フェロモントラップによる雄成虫の累積誘殺数は多かったが、ほ場での発生は認められなかった。	ほ場への飛来は確認されなかった。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	オオタバコガ	—	平年並	ほ場での発生は認められなかった。	ほ場への飛来は確認されなかった。	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	コナガ	—	少ない	ほ場での発生は認められなかった。	ほ場への飛来は確認されなかった。	定植時の粒剤施用または灌注（土壌またはセルトレイ）と、その後は他のチョウ目害虫との同時防除が行われた。
	ハスモンヨトウ	—	平年並	フェロモントラップによる雄成虫の累積誘殺数は平年並みであった。9月下旬の寄生株率は2.0%（平年3.2%）と平年並みであった。	10月の気温は平年よりも高く推移していたが、降水量も平年よりも多く推移していたため、発生量が平年並みであったと考えられる。	定植時の粒剤施用または灌注（土壌またはセルトレイ）と、その後は他のチョウ目害虫との同時防除が行われた。

タマネギ	白色疫病	平年並	平年並	3月下旬における発生ほ場率は20.0% (平年30.0%)、発病株率は0.9% (平年1.6%)となった。全般の発生量は平年並みであった。	—	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	べと病	やや早い	平年並	3月下旬における越冬罹病株の発生量は3.6株/1万株 (平年7.1株/1万株)、発生ほ場率は30.0% (平年29.5%)と平年並みであった。その後、二次感染株の発生が県内各地で認められたが、5月下旬における発生ほ場率は56.0% (平年56.5%)、発病株率は9.4% (平年14.1%)と平年並みであった。	1～3月の気温が平年に比べて高く、やや早く越冬罹病株が発生したが、4～5月の降水量が平年に比べて少なく、また越冬罹病株の抜き取りなどの対策により全般の発生量は平年並みになったと考えられる。	越冬罹病株の抜き取りや発生に応じた薬剤散布が行われた。
イチゴ	灰色かび病	平年並	平年並	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	—	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	うどんこ病	平年並	平年並	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	—	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	炭疽病	平年並	平年並	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	—	発生に応じて薬剤による防除が行われた。
	アブラムシ類	—	平年並	促成、半促成栽培における発生ほ場率は40.0% (平年21.5%)、寄生株率は4.0% (平年4.3%)と平年並みであった。	4月、5月の気温が平年に比べて高かったが、防除効果の高い薬剤の散布により発生量が平年並みになったと考えられる。	定植時とその後は発生に応じて薬剤散布が行われた。
	ハダニ類	—	多い	促成、半促成栽培における発生ほ場率は80% (平年60.1%)、寄生株率は70.0% (平年31.9%)と多かった。	4月、5月の気温が平年に比べて高かったため、発生量が多くなったと考えられる。	発生に応じて薬剤散布が行われた。
	アザミウマ類	—	平年並	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	4月、5月の気温が平年に比べて高かったが、防除効果の高い薬剤の散布により発生量が平年並みになったと考えられる。	発生に応じて薬剤散布が行われた。
キク	白さび病	—	平年並	一部ほ場で発生が認められたが、全般の発生量は平年並みであった。	—	発生に応じて薬剤散布が行われた。
	アザミウマ類	—	平年並	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	—	発生に応じて薬剤散布が行われた。
	ハダニ類	—	平年並	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	—	発生に応じて薬剤散布が行われた。
	アブラムシ類	—	平年並	県内各地で発生がみられたが、全般の発生量は平年並みであった。	—	発生に応じて薬剤散布が行われた。

VII) 情報の提供、諸報告に関する事項

1. 情報の提供方法及び提供先

1) 郵送（*印は注意報のみ）

○国関係

*農林水産省 消費・安全局植物防疫課、*同中国四国農政局 消費・安全部 安全管理課植物防疫係、
気象庁松江地方气象台

○国立研究開発法人

農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境変動研究センター、同果樹茶業研究部門、同ブドウ・カ
キ研究拠点、同西日本農業研究センター

○他県関係

*鳥取、*岡山、*広島、*山口、*徳島、*香川、*愛媛、*高知、各県担当課

○県内関係

農業技術センター、島根県立松江農林高等学校、同出雲農林高等学校、同邇摩高等学校、同矢上
高等学校、同益田翔陽高等学校、同図書館

○県内団体

島根県農業協同組合、農業振興協会

○報道機関

朝日、山陰中央、サンケイ、島根日日、中国、毎日、読売 各新聞社出雲支局（出雲市役所記者
室）、NHK松江放送局、同出雲通信部、山陰放送、同ラジオ総局、山陰中央テレビ放送局、
同編集部、日本海テレビ、同編集部

2) FAX

○県内関係

中山間地域研究センター

○報道機関

日本農業新聞松江支局、同中国四国支所、出雲ケーブルテレビジョン、石見ケーブルテレビ

3) メール

島根県農林水産部 農業経営課、同農産園芸課、東部農林振興センター、西部農林振興センター
、各農業普及部（松江、浜田、安来、雲南、出雲、県央、大田、益田）、隠岐支庁農林局 農業振
興グループ、同島前地域振興グループ、農林大学校、各市町村、全国農業協同組合連合会中四国
営農資材事業所、島根県農薬卸商協会、各病害虫防除員

4) ホームページ

発生予察情報（発生予報、特殊報、注意報、臨時情報）

2. 発表状況

1) 発生予察情報の発表状況

種 類	発表回数	発表部数	対 象 病 害 虫
発生予報	8回	200部	<p>○イネ 葉いもち（2回）、穂いもち（3回）、紋枯病（4回）、 白葉枯病（3回）、もみ枯細菌病（1回）、縞葉枯病（2回）、 黄化萎縮病（1回）、ヒメトビウンカ（4回）、 ニカメイチュウ（5回）、ツマグロヨコバイ（4回）、 イネミズゾウムシ（3回）、セジロウンカ（4回）、 トビイロウンカ（4回）、コブノメイガ（3回）、 斑点米カメムシ類（4回）</p> <p>○ムギ うどんこ病（2回）、赤かび病（2回）、さび病類（2回）</p> <p>○ダイズ ハスモンヨトウ（1回）</p> <p>○ナシ 黒斑病（7回）、黒星病（4回）、シンクイムシ類（6回）、 ハマキムシ類（3回）、ハダニ類（7回）、 アブラムシ類（2回）、カメムシ類（2回）</p>

種 類	発表回数	発表部数	対 象 病 害 虫
			○カキ 円星落葉病（1回）、うどんこ病（3回）、 灰色かび病（1回）、カキミガ（3回）、 チャノキイロアザミウマ（1回）、カメムシ類（3回）、 カキクダアザミウマ（2回） ○果樹全般 カメムシ類（2回） ○キャベツ 黒腐病（1回）、菌核病（1回） ○アブラナ科野菜 アブラムシ類（1回）、コナガ（2回）、アオムシ（1回）、 ハスモンヨトウ（2回） ○タマネギ ボトリチス属菌による葉枯れ（3回）、べと病（3回）、 腐敗病・軟腐病（3回）、白色疫病（1回） ○イチゴ 灰色かび病（2回）、うどんこ病（2回）、 アブラムシ類（2回）、ハダニ類（2回）
注 意 報	1 回	200部	○イネ：トビイロウンカ 1回
特 殊 報	3 回	200部	○トマト、ピーマン：トマト茎えそ病、ピーマンえそ輪点病 1回 ○ツマジロクサヨトウ 1回 ○ブドウ：コウノアケハダニ 1回
臨時情報	1 回	200部	○イネ：トビイロウンカ 1回
技術情報	5 回	200部	○タマネギ：べと病 1回 ○イチゴ：ハダニ 1回 ○タマネギ：腐敗病・軟腐病 1回 ○イネ：トビイロウンカ 1回 ○タマネギ：べと病 1回

3. 発表内容

1) 注意報

(1) 第1号（令和元年9月5日） イネ：トビイロウンカ

2) 特殊報

(1) 第1号（令和元年5月23日） トマト、ピーマン：トマト茎えそ病、ピーマンえそ輪点病

(2) 第2号（令和元年10月21日） ツマジロクサヨトウ

(3) 第3号（令和元年11月15日） ブドウ：コウノアケハダニ

3) 臨時情報

(1) 第1号（令和元年8月5日） イネ：トビイロウンカ

4) 技術情報

(1) 第1号（平成31年4月2日） タマネギ：べと病

(2) 第2号（平成31年4月2日） イチゴ：ハダニ

(3) 第3号（平成31年4月26日） タマネギ：腐敗病・軟腐病

(4) 第4号（令和元年7月19日） イネ：トビイロウンカ

(5) 第5号（令和2年3月2日） タマネギ：べと病

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：角・奈良井]

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

令和元年度病害虫発生予察情報 注意報第1号

令和元年9月5日

島 根 県

県内ではトビイロウンカ成幼虫の生息密度が高まっています。一部地域では坪枯れ被害が発生し、今後、本虫による被害拡大の恐れがあるため、注意報を発表します。現地では、特に収穫が遅い品種における発生状況の把握に努め、適切な防除対策を講じてください。

記

1. 病害虫名 イネ トビイロウンカ
2. 発生地域 県内全域
3. 発生時期 9月上旬以降
4. 発生量 多い

5. 注意報発表の根拠

- 1) 8月28～30日の巡回調査（粘着板による払い落とし）において、発生ほ場率は56.1%（平年29.1%）と高く、捕獲虫数は16.5頭/50株（平年2.6頭）と過去10年間で最も多い。（図1）
- 2) 一部の‘きむぬすめ’ほ場では坪枯れが認められる。（図2，3）
- 3) 坪枯れ発生ほ場では、枯死株以外の株において1株当たり100頭以上（成幼虫）の寄生が認められ、被害の拡大が懸念される。
- 4) 8月下旬に予察灯（出雲市、益田市）において長翅成虫の誘殺を確認した。
- 5) 発生ほ場は全般に7月下旬に比べ増加傾向にあり、生息密度は県東部に比べて県西部で多い。
- 6) 1か月予報（8月29日広島地方气象台発表）によると、9月の気象は本種の発生を抑制する要因とはならない。

6. 防除対策および防除上の注意事項

- 1) 現在、ほ場で確認される成虫は第2世代成虫と8月下旬飛来世代と推定され、次世代幼虫の発生は9月上旬～中旬と考えられる。
- 2) 9月下旬以降に収穫期を迎える品種、収穫が遅れているほ場などは、特に発生状況に注意する。
- 3) 防除は9月上旬の老齢幼虫～成虫期に成幼虫が1株当たり10頭以上であれば必要である。本虫は同一ほ場内でも生息密度に偏りが見られることに留意し、発生状況の把握に努める。
- 4) 散布に当たってはトビイロウンカの生息部位である株元に、薬剤が十分到達するように努める。散布後は防除効果の確認を行う。
- 5) 薬剤の使用に当たっては、農薬の使用基準ならびに農作物病害虫雑草防除指針の注意事項を遵守する。

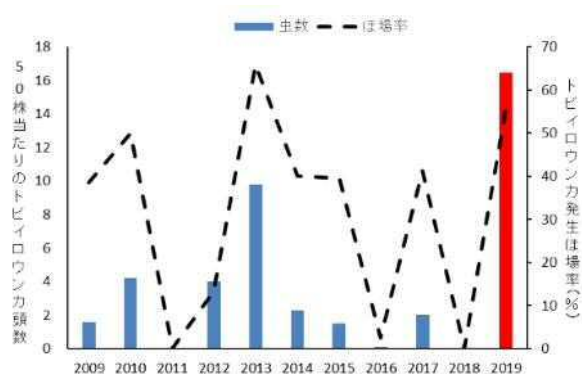


図1 過去10年間のトビイロウンカ発生は場率および捕獲虫数（8月下旬）



図2 トビイロウンカによる坪枯れ



図3 株元のトビイロウンカ成幼虫

島根県病害虫防除所

(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

https://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/

○病害虫防除所のホームページでは発生予察情報の他、各種情報を掲載しています。

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所〔担当：福間・奈良井〕

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

令和元年度 病害虫発生予察情報 特殊報第1号（新病害発生情報）

令和元年5月23日

島根県病害虫防除所

トマト茎えそ病及びピーマンえそ輪点病の本県での発生が確認されたので特殊報を発表します。

【概況】

平成31年4月、県東部の施設栽培のトマト及びピーマンにおいて、茎のえそ、葉のえそや退緑、輪紋、果実の奇形を示す株が確認された（図1～8）。島根県農業技術センターでRT-PCR法による遺伝子診断を実施した結果、キク茎えそウイルス（*Chrysanthemum stem necrosis virus*（CSNV））が検出され、CSNVによるトマト茎えそ病及びピーマンえそ輪点病であることが判明した。

本ウイルスによる病害は、本県では平成20年8月にキク茎えそ病が発生し、特殊報を発表しているが、トマト及びピーマンでの確認は初めてである。国内における両病害の発生は、トマト茎えそ病は平成20年に群馬県で初めて発生が確認され、これまでに15都府県が特殊報を発表、ピーマンえそ輪点病は平成22年に茨城県で初めて発生が確認され、これまでに4県が特殊報を発表している。

- 1 病害虫名 トマト茎えそ病
ピーマンえそ輪点病
- 2 病原名 キク茎えそウイルス
クリサンセマム ステム ネクロシス ウイルス
(*Chrysanthemum stem necrosis virus* : CSNV)
- 3 作物名 トマト、ピーマン
- 4 発生場所 県東部

5 病徴

1) トマト

茎にえそ症状（図1）、葉にえそ症状や退緑、輪紋（図2）、果実に着色不良やえそ、奇形（図3）を生じ、株の生長点付近ではえそ、萎縮、褐変（図4）を生じる。

2) ピーマン

葉に退緑及び輪紋（図5）やえそ斑点症状（図6）、茎にえそ症状（図7）、果実にえそ症状や奇形、株の生長点付近では黄化、萎縮（図8）を生じる。

3) 診断

トマト萎えそ病及びピーマンえそ輪点病は、TSWV によるトマト黄化えそ病及びピーマン黄化えそ病に酷似するため、病徴から病原ウイルスを特定することは困難である。本ウイルスは CSNV に特異的なプライマーを使用した RT-PCR 法によって診断が可能である。

6 伝染経路及び宿主範囲

1) 伝染経路

本ウイルスは、ミカンキイロアザミウマ(図9)により媒介される。本種の1齢幼虫が罹病植物を吸汁することで本ウイルスを獲得し、成虫になってから永続伝搬する。また、罹病株を用いた挿し穂等の栄養繁殖による伝染もある。種子伝染や汁液伝染、土壌伝染はしないと考えられる。

2) 宿主範囲

本ウイルスによる病害は、国内ではトマト及びピーマン以外にミニトマト、トウガラシ、キク、トルコギキョウ、アスターで発生報告がある。

7 防除対策

- 1) 発生ほ場では、罹病株を抜き取り、ほ場外に持ち出して焼却もしくは埋没処分を行い、二次感染防止に努める。
- 2) 本ウイルスの媒介虫であるミカンキイロアザミウマの防除を徹底する。使用する薬剤は、「島根県農薬情報検索システム <http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/shimane>」を参照し、農薬使用基準を遵守する。
- 3) 施設栽培では、開口部に目合い 0.4mm 以下の防虫網を張り、施設内へのミカンキイロアザミウマの侵入を防ぐ。
- 4) 収穫後の残渣やほ場内及び周辺の雑草はミカンキイロアザミウマの生息・繁殖場所となるので、残渣処理や除草を徹底する。
- 5) 施設栽培終了後は、密閉して蒸し込み、ミカンキイロアザミウマを死滅させる。

8 その他

- 1) トマト萎えそ病及びピーマンえそ輪点病は農作物に対して被害を与えるもので、人に対して健康被害を与えるものではない。
- 2) 疑わしい症状が発生している場合は、島根県病害虫防除所(農業技術センター 資源環境研究部 病虫科:0853-22-6772)に連絡する。



図1 トマト茎のえそ症状



図2 トマト葉の退緑、輪紋とえそ症状



図3 トマト果実の奇形症状



図4 トマト生長点の萎縮、褐変とえそ症状



図5 ピーマン葉の円形退緑及び輪紋



図6 ピーマン葉のえそ斑点



図7 ピーマン茎のえそ症状



図8 ピーマン生長点の萎縮



図9 ミカンキイロアザミウマ

【問合せ先】

令和元年10月21日

島根県病害虫防除所 担当：奈良井・小塚

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

令和元年度 病害虫発生予察情報 特殊報第2号

令和元年10月21日

島根県病害虫防除所

本県において、ツマジロクサヨトウの雄成虫がフェロモントラップで確認されたので特殊報を発表します。

- 1 病害虫名 ツマジロクサヨトウ
- 2 学名 *Spodoptera frugiperda* (J.E.Smith)
- 3 発生地域 県東部地域
- 4 発生経過

国内への侵入が確認され、本県において侵入警戒のため、県東部地域に設置したフェロモントラップに本種疑義成虫が誘殺されているのを令和元年10月16日に発見した(写真1)。

農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼したところ、10月18日に本県未発生のツマジロクサヨトウ(雄成虫)であることが確認された。

なお、誘殺後にフェロモントラップ周辺における農作物の被害及び本種幼虫の寄生について調査したが、いずれも確認出来なかった。

5 国内における発生状況

国内では、令和元年7月3日に鹿児島県の飼料用トウモロコシで初めて確認され、その後、熊本県、宮崎県、長崎県、沖縄県、大分県、佐賀県、高知県、茨城県、岡山県、福岡県、千葉県、山口県、愛媛県、福島県、神奈川県、三重県、広島県、大阪府の19府県で現地ほ場での発生が確認されている。

このほか、徳島県、兵庫県、愛知県でもフェロモントラップにおいて雄成虫が誘殺され、特殊報が発表されている。

6 形態及び特徴

- 1) 成虫は開張約37mm、雌雄で外観が大きく異なり、雄のみ前翅中央部に白斑を持つ(写真2)。終齢幼虫は体長約40mmで、頭部複眼の網目模様と頭部縫合線に沿って淡色になるため、この部分が逆Y字状に見えることが特徴である(写真3)。卵は寄主植物に塊状に産み付けられ、雌の体毛で覆われる。
- 2) 国内での報告で幼虫の寄生が確認された植物は飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガム、サトウキビに限られるが、その他のイネ科、アブラナ科、ウリ科、キク科、ナス科、ナデシコ科、ヒルガオ科、マメ科など広範囲の作物に寄生することが知られている。
- 3) 農作物を加害するのは本種幼虫であり、成虫が加害することはない。
- 4) 本種は、暖地に適した種(南北アメリカ大陸の熱帯～亜熱帯原産)であり、熱帯では年4～6世代発生する。南北アメリカでは毎年夏季に成虫が移動・分散するが、暖地を除く地域では越冬することはできないとされている。

7 防除対策

- 1) 国内では幼虫が飼料用トウモロコシ、スイートコーン、ソルガムで多く見つかることから、これらの作物については特にほ場を見回り、早期発見に努める。
- 2) 本虫と疑われる幼虫を発見した場合には、速やかに島根県病害虫防除所まで連絡する。
- 3) 県は、本虫による加害が確認された場合、植物防疫法第29条第1項に基づく措置を行うこととし、国との協議により、加害が確認された作物ごとに選定した薬剤による散布の指導を行う。
- 4) 薬剤散布が困難な場合は、加害作物を早期に刈り取るとともに、幼虫の分散を防ぐため、ほ場内での残渣のすき込みを行う。

8 連絡先

島根県病害虫防除所(農業技術センター病虫科：0853-22-6772)

9 参考資料



写真1 フェロモントラップに誘殺されたツマジロクサヨトウ雄成虫



写真2 ツマジロクサヨトウ雄成虫(左)及び雌成虫(右)、植物防疫所HPより引用



写真3 ツマジロクサヨトウ幼虫、植物防疫所資料より引用

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：角・澤村・奈良井]

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

令和元年度 病害虫発生予察情報 特殊報第3号

令和元年11月15日

島根県病害虫防除所

本県施設ブドウにおいて、コウノアケハダニが確認されたので特殊報を発表します。

- 1 病害虫名 コウノアケハダニ
- 2 学名 *Eotetranychus asiaticus* Ehara
- 3 発生地域 県東部
- 4 発生作物 ブドウ
- 5 発生経過

令和元年8月上旬に県東部施設ブドウにて葉の退色症状が発生し、本所で調査したところ、葉裏に県内では未確認と考えられるハダニ類の寄生が確認された。発生樹においては、その後9月から10月にかけて一部葉の黄化、落葉が認められた。流通経済大学の後藤哲雄教授に同定を依頼したところ、コウノアケハダニであることが判明した。

6 被害・症状

本種による被害は成若幼虫の吸汁によるもので、他のハダニ類の被害と同様に加害された葉は退色し（図1，2）、加害が進むと葉全体が黄化、落葉する（図3）。

7 形態および生態

成虫の体色は、淡黄緑色で側縁部に各3個または不規則な黒斑を持つ。雌成虫は体長0.36mm前後、雄成虫は0.22mm前後（図4，5）。

本種は葉裏に寄生し、休眠性はなく、卵、成若幼虫で越冬する。他の植物では、これまで春季に発生のピークがあり、夏季はほとんど発生しないと報告されている。また、新葉が萎縮・褐変し、激しい場合には落葉するとの報告もある。

本種は日本では本州、九州、沖縄本島に分布している。

8 寄主植物

カンキツ、チャ、カキ、ツツジ、モッコク、エゴノキなどに寄生する。

9 防除上の注意

防除はハダニ類の登録薬剤を用いて行う。

10 参考文献

江原昭三・後藤哲雄（2009） 原色植物ダニ検索図鑑：134.



図1 ブドウ葉の黄化症状（葉表）



図2 ブドウ葉の黄化症状（葉裏）



図3 ブドウ葉の黄化症状（葉全体）



図4 コウノアケハダニ
成虫（上）若虫（下）



図5 コウノアケハダニ
雌成虫（拡大）

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：角・奈良井]

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

令和元年度 病害虫発生予察情報 臨時情報第1号

令和元年8月5日

島根県

トビイロウンカの発生量が近年になくやや多いため、臨時情報を発表します。現地では発生状況の把握に努めるとともに、薬剤散布など防除対策をお願いします。

記

1. 病害虫名 トビイロウンカ
2. 発生地域 県下全域
3. 発生時期 主として8月上旬～（第2世代若～中齢幼虫）
4. 発生量 やや多い

5. 臨時情報の根拠

- 1) 7月25～27日の巡回調査（粘着板による払い落とし）において、発生ほ場率10.9%（平成4.2%）、虫数0.6頭/50株（平成0.12頭）で、産卵数の多い短翅成虫が主体である。この時期としては捕獲虫数がやや多く、過去10年間で2番目の発生量となっている。（図1）
- 2) 捕獲虫数は、県東部に比べ県西部で多く、発生ほ場は増加傾向にある。
- 3) 1か月予報（8月1日広島地方気象台発表）によると、8月の気象は本種の発生を抑制する要因とはならない。

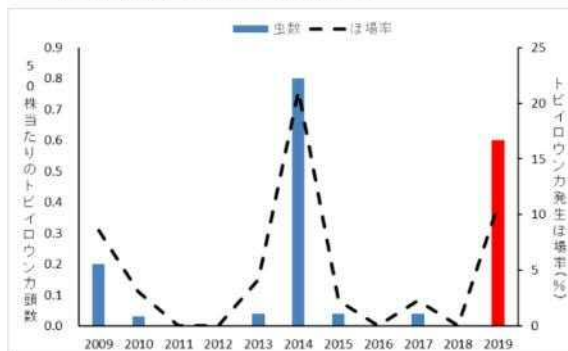


図1 過去10年間のトビイロウンカ捕獲虫数および発生ほ場率（7月下旬）



図2 粘着板上のトビイロウンカ雌成虫(短翅)（7月下旬巡回調査）

6. 防除対策及び防除上の注意事項

- 1) 現在ほ場で確認される成虫は第1世代成虫と推定され、第2世代幼虫の発生は8月上旬～中旬と考えられる。（図2）
- 2) 第2世代若中齢幼虫期の防除は第1世代老齢幼虫～成虫期（7月下旬～8月上旬）に成幼虫が1株当たり1頭程度以上であれば必要である。本虫は同一ほ場内でも生息密度の差がかなりみられるので、発生状況の確認は数か所で行う。
- 3) 散布にあたってはトビイロウンカの生息部位である株元に、薬剤が十分到達する散布器具、方法を用いる。散布後は防除効果の確認を行う。
- 4) 収穫が遅い品種、ほ場などは、特にトビイロウンカの発生状況に注意する。
- 5) 薬剤の使用にあたっては、農薬の使用基準ならびに農作物病害虫雑草防除指針の注意事項を遵守する。

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所〔担当：福間・奈良井〕

TEL：0853-22-6905

FAX：0853-24-3342

平成31年度 病害虫発生予察情報 技術情報第1号

平成31年4月2日
島根県病害虫防除所

タマネギベと病の発生状況について

タマネギベと病の伝染源となる越冬罹病株が県内各地で認められ、発病株率の極めて高いほ場も確認されています。また、本年は従来とはやや様相の異なる越冬罹病株が混在するほ場が多くみられます。この越冬罹病株は、生育の遅れは認められませんが、葉が湾曲し（図1）、病斑上には、従来株同様、多数の胞子が観察されています。今後、発病株率の高いほ場では本病の多発が懸念されます。

現地では発生状況を把握し、越冬罹病株の抜き取り、薬剤散布など防除対策の徹底をお願いします。

【従来とは異なる越冬罹病株の特徴】

生育の遅れは認められないが、葉が湾曲し、病斑が連続した葉位の葉身上に離れて形成される（図1：左）。

【従来の越冬罹病株の特徴】

葉の光沢がなくなり淡黄緑色になり、生育も遅れ、葉は湾曲する（図1：右）。



図1 タマネギベと病越冬罹病株（赤枠内が病斑、黄枠内が従来の越冬罹病株）

1. 発生状況と今後の予想

1) 3月下旬の巡回調査では、越年罹病株の発生ほ場率が30.0%（平年29.5%）、1万株当たりの同発病株数は3.6株（平年7.1株）と平年並みであったが（図2）、多発生ほ場も認められた。多発生ほ場及び周辺ほ場では、今後甚大な被害を受ける可能性がある。

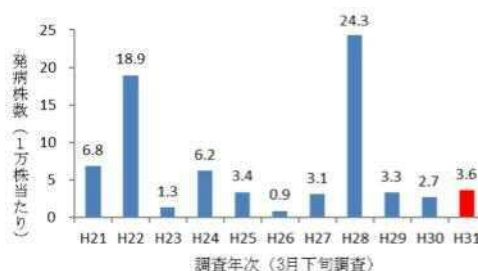


図2 過去10年のタマネギべと病越年罹病株の発生状況

2) 中国地方1か月予報（3月30日～4月29日、広島地方气象台3月28日発表）によると向こう1か月の降水量が高い確率が40%、日照時間が少ない確率が40%であるため、本病の発生にやや助長的であると考えられる。

2. 防除対策及び防除上の注意事項

- 1) 越年罹病株は継続的に胞子を形成し、重大な伝染源となるため、抜き取ってほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- 2) 越年罹病株及び発病株が認められた場合には、感染拡大防止のため、直ちに薬剤による防除を行う。

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：山本・奈良井]

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

平成31年度 病害虫発生予察情報 技術情報第2号

平成31年4月2日

島根県病害虫防除所

イチゴにおけるハダニ類の発生状況について

平成31年3月20日の巡回調査では、イチゴに寄生するハダニ類の発生ほ場割合が平年よりも高く、また発生程度の高いほ場も認められました。現地では発生状況の把握に努めるとともに、薬剤散布など防除対策の徹底をお願いします。

1. 現在の発生状況

- 1) 平成31年3月20日の巡回調査において、ハダニ類（主にナミハダニ、図1）の発生ほ場率は88.9%（平年63.7%）、寄生株率は60.0%（平年26.1%、図2）、寄生小葉率37.1%（平年21.7%）と平年に比べて発生量がやや多い。
- 2) 中国地方1か月予報（広島地方気象台3月28日発表）によると、4月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。



図1 ハダニ類の被害(左)と寄生したナミハダニ(右)

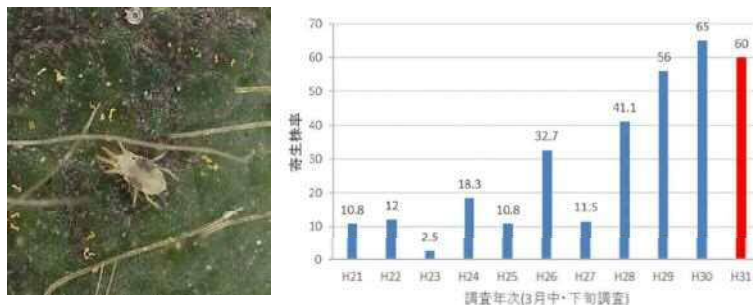


図2 過去10年間のハダニ類の寄生株率

2. 防除対策および防除上の注意事項

- 1) ハダニ類は葉裏に多く寄生しているため、薬剤散布を行う場合は、葉裏に薬剤が付着するよう丁寧に散布する。また、繁茂している場合は薬剤が葉裏にかかりやすくなるため事前に葉かきを行う。
- 2) ハダニ類が寄生した株で葉かきを行ったときは葉を速やかに施設外に持ち出し、適切に処分する。
- 3) 薬剤の使用に当たっては、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項を遵守する。
- 4) 薬剤の選定や薬剤散布の際には、ミツバチに対しての影響を十分に考慮する。
- 5) 天敵製剤を使用しているほ場では、天敵に影響の少ない薬剤を選択する。
- 6) ハダニ類は薬剤感受性が低下しやすいので、薬剤の効果を確認し、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：福間・奈良井]

TEL：0853-22-6905

FAX：0853-24-3342

平成31年度 病害虫発生予察情報 技術情報第3号

平成31年4月26日
島根県病害虫防除所

タマネギ腐敗病・軟腐病の発生状況について

タマネギの腐敗病・軟腐病が平年に比べて発生が早く、発病株率の極めて高いほ場も確認されています。今後、被害の拡大が懸念されます。

現地では発生状況を把握し、薬剤散布など防除対策の徹底をお願いします。

1. 発生状況と今後の予想

- 1) 4月下旬の巡回調査では、軟腐病・腐敗病の発生ほ場率が73.3%（平年30.2%）、発病株率は7.3%（平年1.4%）と過去10年で最も多い（図1）。多発生ほ場では、今後甚大な被害を受ける可能性がある。
- 2) 中国地方1か月予報（4月27日～5月26日、広島地方气象台4月25日発表）によると向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的であると考えられる。

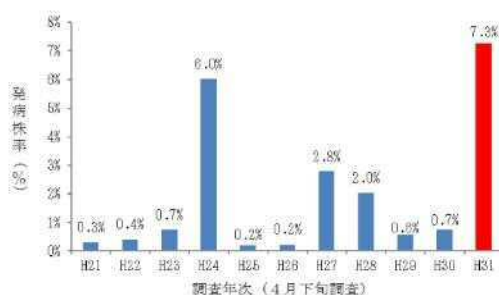


図1 過去10年のタマネギ腐敗病・軟腐病発病株率の推移

2. 防除対策及び防除上の注意事項

- 1) 伝染源となる発病株（図2）を早期に抜き取り、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。
- 2) 発病株が認められるほ場では、感染拡大防止のため、薬剤による防除を行う。
- 3) 両病害とも病原細菌は、主に傷口から感染するため、強風や雹害後に薬剤散布を行う。
- 4) 除草などの管理作業を行う際は、タマネギに傷を付けないよう注意する。
- 5) 貯蔵中の発病を防ぐため、収穫は晴天日に行い、収穫物に傷を付けないよう管理する。



図2 発病株

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：角・奈良井]

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

令和元年度 病害虫発生予察情報 技術情報第4号

令和元年7月19日

島根県病害虫防除所

水稻におけるトビイロウンカの発生状況について

7月中旬の巡回調査において、トビイロウンカの発生ほ場率は平年よりも高く、また一部では捕獲虫数の多いほ場も認められました。現地では発生状況の把握に努めるとともに、薬剤散布など防除対策の徹底をお願いします。

1. 現在の発生状況

- 1) 7月11～12日の巡回調査（粘着板による払い落とし）において、トビイロウンカの発生ほ場率は13.0%（平年1.9%）、平均捕獲虫数は3.0頭/50株（平年0.04頭）と発生ほ場率、捕獲虫数とも平年に比べて多く、過去10年間で最も多くなっている。（図1）
- 2) 捕獲虫数は、ほ場間でやや異なり、地域的には県東部に比べて県西部で多い。
- 3) 中国地方1か月予報（広島地方气象台7月18日発表）によると、8月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

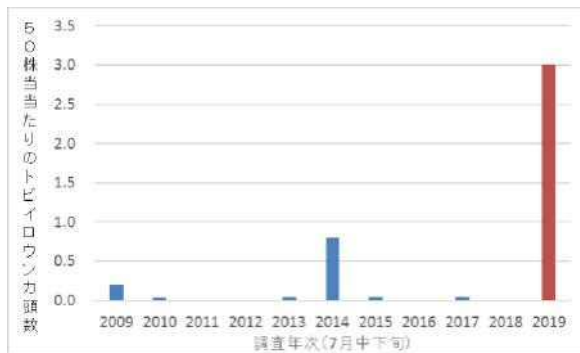


図1 過去10年間のトビイロウンカ捕獲虫数
(7月中下旬)



図2 トビイロウンカ成幼虫

2. 防除対策及び防除上の注意事項

- 1) 現在ほ場で確認される幼虫は第1世代幼虫と推定され、第2世代幼虫の発生時期は8月上旬～中旬と考えられる。
- 2) 薬剤散布は第1世代幼虫期に行う。その後は発生状況に応じて第2世代若中齢幼虫期を重点に散布する。
- 3) 第2世代若中齢幼虫期の防除は第1世代老齢幼虫～成虫期（7月下旬～8月上旬）に成幼虫が1株当たり1頭程度以上であれば必要である。
- 4) 発生状況の確認に当たっては本種の生息場所である株元をよく観察する。
- 5) 薬剤の使用に当たっては、農薬の使用基準ならびに農作物病害虫雑草防除指針の注意事項を遵守する。

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：福間・奈良井]

TEL：0853-22-6905

FAX：0853-24-3342

令和元年度 病害虫発生予察情報 技術情報第5号

令和2年3月2日

島根県病害虫防除所

タマネギベと病の発生状況について

タマネギベと病の伝染源となる^{えつねんりびようかぶ}越年罹病株が県内各地で認められ、発病株率の高いほ場も一部で確認されています。今後、気温の上昇に伴い多数の胞子が形成され、二次伝染が懸念されます。

現地では発生状況を把握し、越年罹病株の抜き取り、薬剤散布など防除対策の徹底をお願いします。



図1 タマネギベと病越年罹病株（黄枠内）

1. 発生状況と今後の予想

- 1) 2月下旬の巡回調査では、越年罹病株の発生ほ場率が10.7%、1万株当たりの同発病株数は3.4株であった。
- 2) 中国地方1か月予報（2月29日～3月28日、広島地方气象台2月27日発表）によると向こう1か月の降水量が高い確率が40%、気温が高い確率が80%であるため、本病の発生にやや助長的であると考えられる。

2. 防除対策及び防除上の注意事項

- 1) 越年罹病株は継続的に胞子を形成し、重大な伝染源となるため、抜き取っては場外へ持ち出し適切に処分する。
- 2) 越年罹病株及び発病株が認められた場合には、感染拡大防止のため、直ちに薬剤による防除を行う。

Ⅷ) 気象表 (令和元年)

観測地点：出雲市芦渡町2440 (海拔20m)

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時数	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1月	1	5.9	5.4	11.6	9.1	-1.3	1.7	20.5	19.1	9.4	9.7
	2	5.2	5.0	11.0	8.6	-3.0	1.4	4.0	20.3	7.6	9.1
	3	6.4	4.8	12.3	8.3	-0.7	1.2	3.5	21.0	19.6	9.0
	4	7.1	4.5	13.6	8.0	-0.8	0.9	15.5	20.5	8.7	8.9
	5	7.1	4.2	11.6	7.7	0.4	0.7	1.5	18.9	11.3	8.6
	6	5.2	4.0	12.1	7.6	-2.6	0.5	41.0	20.2	12.7	11.6
合計, 平均		6.2	4.7	12.0	8.2	-1.3	1.1	86.0	120.0	69.3	56.9
2月	1	7.0	4.2	15.1	7.9	-2.0	0.4	27.5	15.3	16.0	11.5
	2	6.3	4.6	14.6	8.5	1.4	0.6	9.0	15.2	7.6	12.8
	3	4.4	4.9	10.2	9.0	-1.5	0.7	5.5	16.8	7.1	13.7
	4	7.0	4.9	15.1	9.2	-2.0	0.7	33.0	18.7	8.8	14.9
	5	6.5	5.1	14.2	9.4	-1.7	0.7	0.5	20.0	29.4	16.1
	6	7.1	5.4	13.0	9.8	-0.1	0.9	10.0	12.3	12.5	10.2
合計, 平均		6.4	4.9	13.7	9.0	-1.0	0.7	85.5	98.3	81.4	79.2
3月	1	7.5	5.8	15.4	10.3	0.0	1.2	16.0	20.3	25.6	18.1
	2	7.5	6.4	17.0	11.1	-2.2	1.6	34.0	18.9	23.8	20.0
	3	7.9	7.2	13.1	12.0	0.7	2.0	46.5	18.6	18.0	22.1
	4	8.3	7.8	21.0	12.7	-1.8	2.5	13.0	19.6	29.6	23.4
	5	9.5	8.3	22.8	13.3	0.7	2.9	10.5	20.5	14.1	23.5
	6	10.8	9.0	19.8	14.0	2.7	3.5	6.5	24.0	31.3	29.5
合計, 平均		8.6	7.4	18.2	12.2	0.0	2.3	126.5	121.9	142.4	136.6
4月	1	8.6	10.0	19.2	15.3	-1.4	4.2	3.0	18.9	38.3	27.6
	2	10.9	11.1	17.7	16.4	1.6	5.2	36.5	18.9	26.8	29.3
	3	10.2	12.0	17.9	17.4	0.6	6.2	6.0	19.0	30.3	29.8
	4	13.5	12.9	24.1	18.3	1.9	7.1	1.0	18.4	42.4	30.5
	5	16.9	13.8	28.7	19.3	8.2	7.9	15.0	17.6	25.3	31.7
	6	12.4	14.7	18.4	20.2	4.1	8.7	46.0	18.3	12.4	33.1
合計, 平均		12.1	12.4	21.0	17.8	2.5	6.6	107.5	111.1	175.5	182.0
5月	1	16.3	15.6	27.0	21.1	7.8	9.7	0.0	20.8	48.6	33.2
	2	14.7	16.2	24.4	21.6	2.9	10.5	0.0	23.1	48.6	32.2
	3	18.9	16.5	28.9	21.8	8.9	10.9	0.0	23.6	51.5	32.1
	4	21.4	17.0	30.8	22.2	12.1	11.5	36.0	21.2	30.0	33.2
	5	18.5	17.6	28.5	22.9	8.3	12.1	0.0	19.1	63.2	34.4
	6	19.2	18.4	30.2	23.7	10.1	12.9	6.0	23.3	39.3	41.3
合計, 平均		18.2	16.9	28.3	22.2	8.4	11.3	42.0	131.1	281.2	206.4
6月	1	21.2	19.2	31.4	24.5	11.2	13.9	0.0	18.0	49.7	33.6
	2	19.9	20.0	31.8	25.3	14.3	14.8	39.5	16.6	19.1	32.1
	3	19.6	20.6	28.9	25.8	14.7	15.8	43.5	21.0	22.0	30.0
	4	20.1	21.3	27.4	26.0	14.2	17.0	3.5	34.4	41.0	26.0
	5	20.4	21.8	29.8	26.2	13.8	18.0	0.0	51.3	28.9	21.3
	6	23.5	22.4	31.2	26.5	16.5	18.9	67.0	60.2	12.8	19.7
合計, 平均		20.8	20.9	30.1	25.7	14.1	16.4	153.5	201.5	173.5	162.7

月 半旬		平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時数	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7 月	1	23.2	23.2	28.8	27.1	18.9	19.7	1.5	55.7	20.7	21.5
	2	23.3	24.0	29.6	27.9	17.8	20.5	16.5	51.1	21.3	22.9
	3	22.8	24.6	29.9	28.7	19.0	21.1	31.5	51.4	12.6	24.3
	4	24.5	25.2	31.9	29.4	20.1	21.6	54.0	45.0	17.4	28.9
	5	27.3	25.8	32.3	30.2	23.2	22.0	4.0	31.1	16.6	34.2
	6	28.0	26.3	34.1	30.9	23.2	22.3	1.0	22.6	62.0	43.9
合計, 平均		24.9	24.9	31.1	29.0	20.4	21.2	108.5	256.9	150.6	175.7
8 月	1	28.8	26.6	36.2	31.4	23.4	22.4	0.0	15.8	53.5	36.9
	2	28.3	26.6	36.1	31.6	22.9	22.4	1.0	18.3	35.7	36.0
	3	29.4	26.5	37.0	31.4	23.4	22.5	7.5	20.6	43.0	34.2
	4	26.3	26.2	31.5	31.0	22.4	22.2	37.5	21.0	19.0	33.2
	5	25.4	25.8	30.9	30.6	20.0	21.7	112.0	20.9	12.6	32.5
	6	24.0	25.2	30.2	30.2	18.7	21.0	105.5	27.3	23.8	37.3
合計, 平均		27.0	26.2	33.7	31.0	21.8	22.0	263.5	123.9	187.6	210.1
9 月	1	25.0	24.4	33.2	29.3	19.0	20.3	22.0	27.6	21.0	28.5
	2	27.9	23.4	35.4	28.2	22.6	19.4	0.0	32.0	44.9	26.2
	3	24.5	22.5	31.0	27.3	19.3	18.4	10.5	32.6	25.8	25.4
	4	21.6	21.6	28.5	26.5	13.3	17.3	4.0	31.6	31.8	25.4
	5	19.8	20.5	29.0	25.5	12.6	16.2	52.5	30.4	18.3	24.7
	6	22.8	19.5	29.1	24.5	14.3	15.1	29.0	26.6	21.1	24.0
合計, 平均		23.6	22.0	31.0	26.9	16.9	17.8	118.0	180.8	162.9	154.2
10 月	1	22.9	18.6	30.6	23.7	14.8	14.0	11.5	21.3	19.9	24.3
	2	17.6	17.8	24.4	23.1	9.4	13.0	22.5	18.9	29.3	25.4
	3	17.6	16.9	26.1	22.4	8.7	11.8	5.5	18.8	16.8	26.6
	4	16.2	15.8	22.2	21.4	8.0	10.6	60.5	18.6	19.7	26.9
	5	17.4	14.8	23.4	20.4	12.8	9.7	37.0	17.5	11.9	25.4
	6	15.9	14.0	22.0	19.5	7.8	8.9	0.5	21.5	39.4	28.4
合計, 平均		17.9	16.3	24.8	21.8	10.3	11.3	137.5	116.6	137.0	157.0
11 月	1	13.6	13.4	22.1	18.8	4.1	8.3	9.0	18.9	29.2	22.7
	2	13.1	12.8	20.9	17.9	4.8	7.9	2.5	19.8	30.4	21.0
	3	13.0	11.9	21.0	16.7	2.0	7.2	7.0	20.4	23.8	18.0
	4	12.7	10.9	21.1	15.5	4.8	6.1	10.5	19.1	8.5	16.6
	5	10.9	10.0	20.0	14.7	2.1	5.2	2.0	18.8	21.6	15.7
	6	8.6	9.3	15.7	13.8	2.0	4.8	8.0	21.5	16.2	14.3
合計, 平均		12.0	11.4	20.1	16.2	3.3	6.6	39.0	118.5	129.7	108.3
12 月	1	9.8	8.6	16.8	12.9	2.5	4.3	30.5	23.8	3.0	13.2
	2	7.0	8.0	16.2	12.1	-0.3	3.8	6.0	22.9	17.3	12.1
	3	8.6	7.4	16.3	11.2	1.1	3.4	2.5	20.5	13.7	11.2
	4	9.6	6.9	16.7	10.6	-1.5	3.0	57.0	18.6	10.1	11.0
	5	7.3	6.5	16.5	10.3	1.0	2.6	1.0	17.8	11.1	11.5
	6	7.8	6.0	16.3	9.8	-0.7	2.1	30.0	21.5	9.7	13.1
合計, 平均		8.4	7.2	16.5	11.2	0.4	3.2	127.0	125.1	64.9	72.1

西暦年の1位が1の年から数えて、連続する30年間について算出した累年平均値を平年値という。これをその統計期間に引き続く10年間使用し、10年ごとに更新する。したがって2011～2020年の間は、1981～2010年(昭和56～平成22年)の資料から算出された平年値を使用する。

令和元年度 農作物有害動植物発生予察事業年報
2021年 3月 31日 発行
編集・発行 島根県農業技術センター
(資源環境研究部 病虫科)
島根県病虫害防除所
〒693-0035 島根県出雲市芦渡町2440番地
電 話 (0853) 22-6772
F A X (0853) 24-3342